「日本語教育学臨地実習」日本語教育機関訪問成果報告書

大学院総合国際学研究科博士前期課程
言語応用専攻日本語教育学専修コース
5112002
新井ますみ

＜訪問先の情報＞

１．訪問に関する一般情報

訪問地（国・都市）

アメリカ合衆国・ニューヨーク市

訪問校・訪問先

コロンビア大学

訪問先を選んだ動機

同校はアメリカ合衆国の中でも日本語教育が充実しているため

訪問期間

2013 月 2 月 21 日～3 月 5 日

住居・宿泊先

Astor on the Park
465 Central Park West, New York City, NY 10025
United States

２．訪問機関に関する情報

訪問機関の名称

コロンビア大学　日本語学科

規模（学生数など）

学生数約 200 名、１コースあたり最大 15～20 名で、９コース

立地（周辺の様子）

（モーニングサイドハイツのメインキャンパスに関して）アクセスは良好。地下鉄の 116 Street Columbia University Station 駅下車。学校関連施設が集中しており、落ち着いた雰囲気であった。

学部構成

Columbia College（教養学部）

The Fu Foundation School of Engineering and Applied Science（工学部）
School of General Studies（教養学部）

学事暦（授業期間／休暇期間）
<2012 年度秋学期>
授業期間　９月４日（火）～11 月 10 日（月）、試験準備期間 11 月 11 日（火）～11 月 13 日（木）、期末試験期間　11 月 14 日（金）～11 月 21 日（金）

<2013 年春学期>
授業期間　１月 29 日（火）～５月６日（月）
春休み　３月 18 日（月）～３月 22 日（金）
試験準備期間　５月７日（火）～５月９日（木）
学年末試験期間　５月 10 日（金）～５月 17 日（金）
学位授与式　５月 22 日（水）

研修校・研修先の特徴、その国における位置づけ
1754 年に設置された私立大学。全米で５番目に古いアイビー・リーグの一校である。世界的な研究大学としてノーベル賞受賞者を世界最多の 98 名輩出していることで有名。国内外の各種ランキングにおいて常に上位に位置し、国際的な一流教育、研究拠点としての確固たる地位を築いている。常に米国大学ランキングでトップ 5 にランクインし、世界大学ランキングではトップ 10 に入っている。

日本語教育開始年月日

日本語学習者数
約 200 名

一クラスの学生数
最大 15～20 名

主な開講科目について（科目名・学年・時間数等）
全９コース（以下参照）
First Year Japanese(regular course, 5 credits)
Elementary Japanese(non-intensive, 2.5 credits) Elem B, Elem A
Second Year Japanese
Third Year Japanese
Third Year Japanese-Academic Reading Course
Fourth Year Japanese
Fourth Year Japanese-Business Japanese

Fifth Year Japanese
Japanese Language Pedagogy
学年：　１～５年生
時間数：　１～３年生は 65 分授業を週４日/４年生は 70 分授業を週３日/５年生は 75 分授業を週２日

日本語担当教員数
専任　（日本人：８名，日本人以外：国籍＿＿＿＿＿＿　０　名）
非常勤（日本人：１名，日本人以外：国籍＿＿＿＿＿＿　０　名）

使用教材
『みんなの日本語』シリーズ（英語翻訳含む）
『飛躍』
改訂版『トピックによる日本語総合演習上級』（スリーエーネットワーク）

クラスの様子
真面目、落ち着いている

付属言語教育機関について（訪問国の言語を教えるコースの有無・授業料・授業編成等）
コロンビア大学の付属語学学校（American Language Program（ALP））
授業料：　約 60 万円から 110 万円ほど
プログラム：　週 18 時間授業、Winter/4 週間、Spring・Fall/12 週間、Summer/4・7・11 週間

臨地実習に行くのが望ましい時期
試験期間ではない方が望ましいように思う。

３．宿泊先について

住居の形態
ホテル（候補は Astor on the Park の他に２軒あった）
一泊 11,370 円
宿泊先は冷蔵庫・金庫なし。部屋の暖房が強い。壁が薄いせいか音が気になった。インターネット接続可能なパソコンがラウンジにあるが、有料であった。落ち着いた環境で使用したいのであれば、パソコンと Wi-Fi ルーターは持参するべき。

学校までの行き方
徒歩で 20 分ほど。

周辺の環境
大学の近くにはデリが充実しており、ストリートベンダーもあった。

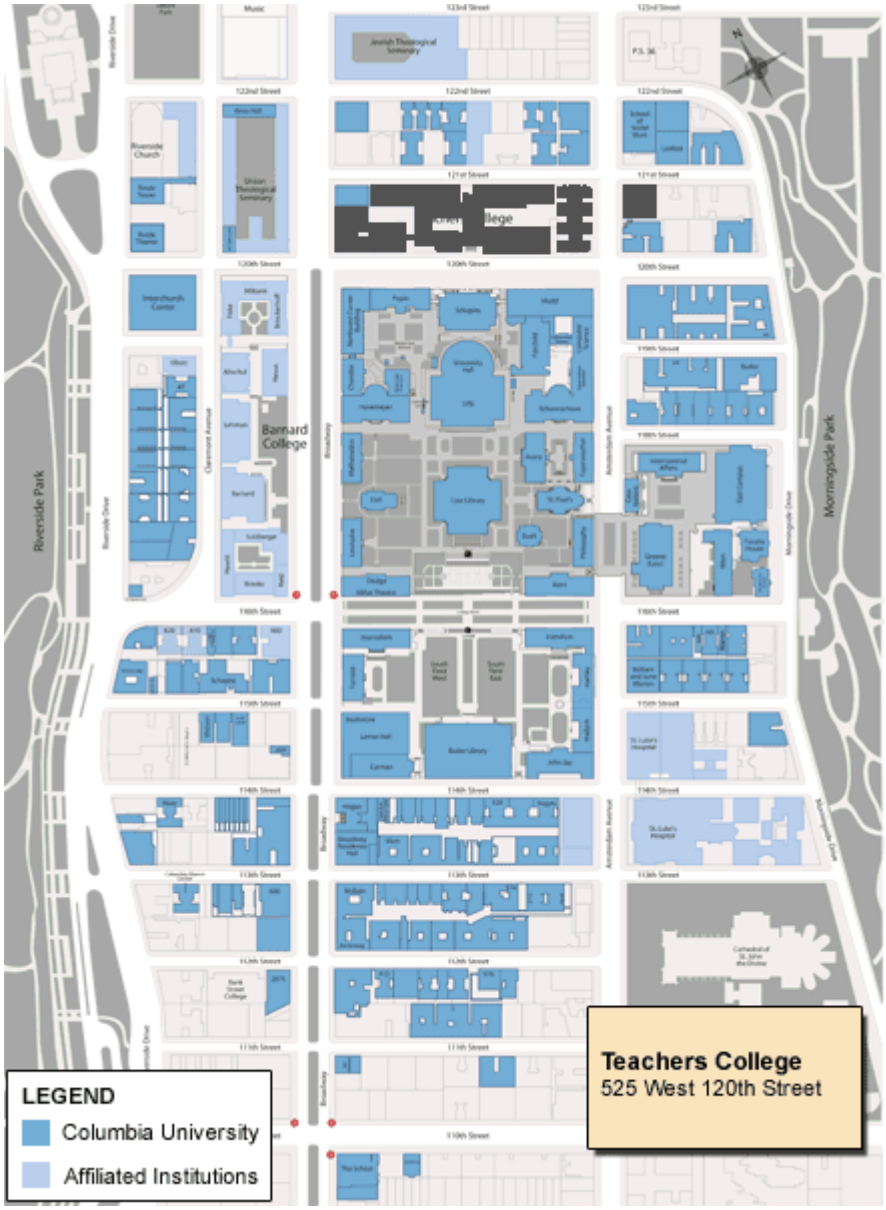
４．その他、補足事項

なし

〈その他研究、実習の成果〉

１．施設見学に関して

１．１　内容



Kent Hall, Hamilton, Philosophy 以外の校舎を授業で使うことはなかったが、どの校舎にも自由に入ることができた。

画像入手先：
http://www.columbia.edu/about_columbia/map/images/maps/map.png

１．２　学んだこと

・日本の大学とコロンビア大学のシステムの違い（コロンビア大学の宿題と小テストの多さ等）
・日本の大学生とコロンビア大学の学生の意識の違い（日本の学生よりも単位を取ることが難しい分、よく勉強している、目的意識を持って授業に臨んでいる等）
・教師と学生の距離が近い（クラスの規模が小さいためか）
・学生は皆忙しく、横の繋がりが薄いそう
・日本の大学生とアメリカの大学生の時間の使い方の違い（日本の大学生はアルバイトやサークル

など、課外活動に使う時間が長い）
・古い建物が大切にされている
・コロンビア大学の学生は図書館を積極的に利用している

２．授業見学に関して

２．１　内容

・なずきあん先生　博士課程の授業
・江口先生　１年生、３年生の授業
・松井先生　４年生（ビジネス日本語）の授業
・入戸野先生　２年生、５年生の授業
・岡本先生　２年生、３年生の授業
・朴先生　１年生、４年生の授業
・立見先生　エレメンタリー、１年生の授業
・渡邊先生　２年生の授業

２．２　学んだこと

・江口先生の授業

コロンビア大学に来て初めて拝見したのが、江口先生の３年生の授業であった。

「平気です」という語彙から、「平」を使った別の言葉は何があるかと先生が尋ねられた。それに対し学生から平和、平安、太平洋、平均と次々に語彙が挙げられたときには、そのレベルの高さに驚いた。江口先生の授業は、学生に話す機会が多く与えられる点が魅力だと感じた。見学させていただいた３年生と１年生の授業のどちらにおいても、学生が教科書を開く場面は目にとまらず、板書を写す場面も極めて少ないものであった。それゆえ、学生が下を向いている時間がほぼなく、活発に会話が交わされていたことが印象に残った。特に、１年生の授業であっても、これほど多く「話す」活動を取り入れられるのだという気づきが印象に残った。

・松井先生の授業

４年生のビジネス日本語のクラスを拝見した。私は「ビジネス日本語」と聞いて、日本のビジネスについてのトピックを扱う授業だというイメージを持っていたが、実際は違った。学生が社会問題をどう捉え、どう解決していくかを考える授業で、能動的に社会に働きかけることを意識している点が印象に残った。教材の内容確認をする活動では、キーワードの中に「根回し」「なあなあ文化」など日本の企業文化を説明するものが含まれていた。日本語の勉強を通して日本文化を客観視し、批判的に捉えることには、「日本語が面白い」といった初期段階を超えた、日本語学習の知的な面白さがあると感じた。私自身、松井先生の授業を見学して日本の社会問題について考えさせられ、「自分が」どう行動するかを意識しなければと強く感じた。

・入戸野先生の授業

２年生の授業ではディベートを、５年生の授業では春祭りに向けての落語の準備を拝見した。２年生クラスではディベートそのもの以外でも、評価基準について意見を出したり、勝敗を決める際に

judge が話し合いをしたりと、会話の機会が多くあった。ティーチャートークは日本語がほとんどであったが、学生からの質問は英語であった。この日本語と英語のやり取りが何ターンかあったが、学年が上がれば質問も日本語でするようにと指示なさるのかが気になった。５年生クラスでは、各学生が気に入った落語の概要を説明する活動が行われた。Story telling という難しい活動であったが、起承転結を上手に話せる学生が多く、その実力に舌を巻いた。話を聞いていて、笑ってしまったり怖くなったりするのは、学生の発話がなめらかで、正確に話せている証拠だと感じた。

・岡本先生

３年生と２年生の授業を拝見した。どちらの授業でも、先生が学生との自然なやり取りから例文を作っていて、経験のある先生だからこそ成せる技だと感じた。私は学生にとって、先生の教師経験の豊かさを感じられることは意味があると考えている。それによって教師としての信頼感が高まり、質問しやすかったり、「この先生について行けば大丈夫」という精神的な支柱となったりすると捉えているためだ。また、岡本先生の授業では学生が「気づく」場面、「思い出す」場面をよく目にした。復習でも練習でも、先生が声をかけ、少しやり取りをすると「ああ、そういうことか！」というような反応を見せる学生が多かったように思う。この気づき、ひらめきこそが学びだと思うので、このような反応を学生から引き出すことが教室学習の意義だと感じた。

・朴先生の授業

１年生のクラスは学生が 15 名と多い中で、一人ひとりのノートを丁寧に見て回っていらしたのが印象に残った。全員のノートを見て、傾向を掴むからこそできる漢字のバランス指導（全体が長方形に入るか？など）や、既習項目に似た漢字の一部や部首はその既存知識と関連付ける活動は、認知面で効果的な指導だと感じた。４年生の授業では、扱う文章のレベルの高さもさることながら、学生たちの読解力の高さに驚いた。このジャンルの文章だからこそ現れるような表現（はかない、疑問を感じます、崩れ去る、むしろ、あたかも、しばしば等）の説明も先生が一方的に説明するのではなく、学生が口を挟みながら展開する点が現実的で良かった。実生活でわからない語彙に出会ったときの解決法に近い実践であったと思うためだ。

・立見先生

エレメンタリーと１年生のクラスを拝見した。どちらのクラスでも、ティーチャートークがほとんど日本語だったことが印象的であった。当初はエレメンタリーで教科書のタイトルをひらがなで提示し、音読させていた理由がわからなかったが、先生の狙いあっての活動と知って納得した。１年生のクラスで漢字学習を終えた後、レアリア（広告や本の表紙等）を提示し、読める部分を読ませる活動があった。読めない部分があってもそこを予想で補って読み進め、全体で理解することは現実的で、有用性の高い活動だと感じた。私が教壇に立つ際には、是非参考にさせていただきたい。また、同じ Modification を扱うのであってもオークションや辞書作りなど、様々な文脈からアプローチしているのが面白く、学生の興味を引きつけられていると感じた。

・渡邊先生

２年生の授業を拝見した。文法の授業であったが、「話し合ってみましょう」や例文の作成で学生が

ペアで話し合う活動が多く行われていた。私の既存の文法授業のイメージは、先生が教科書を使って説明するというものだったので、それとは大きく異なるものであった。各文法項目について昔話から一文､それ以外に四文､そして穴埋めのものが二文と例文が豊富に提示されていたのが良いと思った。穴埋めの例文は、学生がオリジナリティを発揮できる機会として、授業を面白いものにしていると感じた。これまで私は文法の授業というと、規則を説明し、理解させる活動と捉えていた。しかし、渡邊先生の授業はそれに留まらず､学生が間違いを超えて理解するところまで活動に含まれているので、より深く文法項目を学ぶことができると感じた。

３．教壇実習に関して

	学習項目	活動	時間配分	目的
前作業 （10 分）	・会話 （文型２.「V ていただきました」、文型３.「V てくださいました」）	・イラストから、ストーリーを予想させる ・予想した内容をクラスで共有する ・会話を聞かせる	３分 ５分 ２分	本日の学習内容によって、どのような機能が果たせるようになるかをイメージさせる。
本作業 （45 分）	・会話 （文型２.「V ていただきました」、文型３.「V てくださいました」） ・基本練習	・会話の内容理解を確認できる質問をする（「ミラーさんは小川さんに何をお願いしましたか。」「小川さんは何と答えましたか。」「小川さんはミラーさんに何をお願いしましたか。」「ミラーさんは何と答えましたか。」） １. 例） <前件> 駅(えき)へ行(い)きたいです・ 発(はつ)音(おん)が上(じょう)手(ず)になり		文脈の理解度を確かめる。 文型に慣れさせる。 文型を何度も口にさせることで、発

		たいです・ <後件> ・発(はつ)音(おん)を直(なお)してもらいます ・道(みち)を教(おし)えます <前件><後件>で意味が通るように文を完成させる。 →　駅(えき)へ行(い)きたいんですが、道(みち)を教(おし)えていただけませんか。 →　発(はつ)音(おん)が上(じょう)手(ず)になりたいんですが、発(はつ)音(おん)を直(なお)して　いただけませんか。 <前件> １）よく聞(き)こえませんでした・ ２）コピー機(き)が動(うご)きません・ ３）着(き)物(もの)を着(き)たいです・ ４）おいしい すき焼(や)きが食(た)べたいです・ <後件> ・いいお店(みせ)を教(おし)えます ・もう一(いち)度(ど)言(い)います ・ちょっと見(み)ます ・着(き)せてもらいます →　１） 　　２） 　　３） 　　４） ２． 例) A：小(こ)林(ばやし)さん、すみません。ちょっとお願(ねが)いがあるんですが…。		話を正確かつ流暢にさせる。 実際の場面でも使えるよう、文脈を与えて練習させる。

		B：何(なん)ですか。 A：①電球(でんきゅう)を　取(と)り替(か)えたいんですが、 ②懐(かい)中(ちゅう)電(でん)灯(とう)を貸(か)していただけませんか。 B：ええ、いいですよ。 下線部分を入れ替えてペアで会話をさせる。 １）①旅(りょ)行(こう)に行(い)きたいです ②犬(いぬ)にえさを　やります ２）①来(らい)週(しゅう)、国(くに)に帰(かえ)りたいです ②荷(に)物(もつ)を預(あず)かります ３）①漢(かん)字(じ)が苦(にが)手(て)です ②書(しょ)類(るい)を読(よ)みます ４）①てんぷらを作(つく)りたいです ②作(つく)り方(かた)を教(おし)えます ３． 例） A：日曜日は、ハイキングに（誘います）。 B：楽しかったですね。また行きましょう。 →　A：日曜日は、ハイキングに誘ってくださって、ありがとうございました。 １） A：かぜをひいたときは、（心配します）。 B：どういたしまして。かぜが治って、よかったですね。 ２） A：引っ越しを（手伝います）。 B：いいんですよ。気にしないでください。 ３）		丁寧な依頼ができる。 文脈に沿った文を完成できる。

	・応用練習	A：リンさん、試験はうまくいきましたか。 B：はい。辞書を　（貸します）　。 ４） A：日曜日のお祭りはどうでしたか。 B：とても楽しかったです。盆踊りを　（教えます）　。 ・　自分の役割とタスクを確認する ・　ペアでロールプレイをする ・　ロールプレイを発表する ・　他のペアの発表を聞いて、先生の質問（「A さんの役割は何ですか、何を依頼しましたか？」など）を答える ・フィードバックを受ける		丁寧な依頼ができるようになる。
後 作 業 （10 分）	・復習	・今日の学習項目のおさらい	・やりとりで確認	

当初は模擬授業の実施を予定していたものの、模擬授業の実施が難しいため、代替手段として授業案の提出を行うこととなった。以下、模擬授業の教案を記す。

３．１　内容

模擬授業案（『みんなの日本語　初級Ⅱ本冊』第 41 課）

３．２　学んだこと

先生からのフィードバックを受け取っていないので、模擬授業作成にあたって先生にご指導いただいた点を記す。

模擬授業案は前作業・本作業・後作業の三部構成とし、活動・時間配分・目的を示す。目的は文法の習得にならないように注意が必要で、proficiency に基づいた授業設定を意識するよう指示があった。

４．今後の「日本語教育学臨地実習」の派遣先・研修対象としての適切性について

４．１　臨地実習の派遣先として

教壇実習を望む学生には不適切である。基本的に、教壇実習をさせてもらえる可能性は低い。ち

なみに今回は、学生が模擬授業を行う Pedagogy の授業に参加し、模擬授業をさせてもらえる予定であったが実現しなかった。

４．２　全般的に訪問先として

適切だと感じた。先生も学生もゲストを受け入れることに前向きで、慣れている様子であった。

４．３　本学学生の訪問先への貢献

３年生以上の授業では、学生から質問を受けることで貢献できた。１・２年生の授業では、会話練習時にペアの数合わせで貢献したこともあった。

４．４　今後の課題・提案

先方の先生は、今後も外大と交流を続けて、何か活動を共にできればとおっしゃっていた。コロンビア大学には中国・韓国出身の学生は多いが、日本出身の学生は少ない。（キャンパス内でも見かけることはなかった。）ゆえに、日本語ネイティブとの交流を提供するという点で先方の役に立てると思う。

「日本語教育学臨地実習」日本語教育機関訪問成果報告書

大学院総合国際学研究科博士前期課程
言語応用専攻日本語教育学専修コース
5112007
王美玲

＜訪問先の情報＞

１．訪問に関する一般情報

訪問地（国・都市）

スペイン・マドリード

訪問校・訪問先

マドリード・アウトノマ大学（Autonomous. University of Madrid）

訪問先を選んだ動機

非アジア系、非漢字圏の学生の授業の様子を見てみたいからです。とくに欧米の日本語教育実態に興味を持っています。マドリード・アウトノマ大学はクラスの学生数と使用教材などの点で、台湾の大学の日本語教育と似ているので、同じ教科書で、先生の異なる使え方・教え方を参考にしたいです。

訪問期間

2013 月 2 月 22 日～3 月 8 日

住居・宿泊先

Express By Hi Tres Cantos　ホテル

２．訪問機関に関する情報

訪問機関の名称

マドリード・アウトノマ大学、文学部アジア・アフリカ学科日本研究課程

規模（学生数など）

学生数およそ 33,000 人の州立大学です。

立地（周辺の様子）

マドリードの郊外に位置しています。マドリード中心街へは電車で 25 分で簡単にアクセスできます。ホテルの最寄駅 Tres Cantos 駅から電車で約 10 分で便利です。国鉄 Cantoblanco Universidad で下車、駅から大学まで 0 分です。キャンパス周辺は、自然が多く勉学に適した環境だと思います。

学部構成

理学部、法学部、哲学文学部、心理学部、医学部、経済学部、経営科学部、教育学部、ほか。

学事暦（授業期間／休暇期間）

2012-2013 年度

前期：9 月 10 日～1 月 19 日（冬期休暇：12 月 22 日～1 月 7 日）

前期期末試験：1 月 8 日～1 月 19 日

後期：1 月 21 日～5 月 18 日（春期休暇：3 月 25 日～4 月 1 日）

後期期末試験：5 月 6 日～5 月 18 日

追試験：6 月 10 日～7 月 2 日（夏期休暇：7 月 3 日～9 月 8 日）

研修校・研修先の特徴、その国における位置づけ

マドリード・アウトノマ大学、文学部アジア・アフリカ学科日本研究課程の日本研究コースは、スペイン国内では有数の日本研究機関です。マドリッドで唯一、日本語を専攻できる大学です。優秀な研究機関と複数の学部があります。アジア・アフリカ学科日本語研究課程に所属する学生は、優秀な者が多く、翻訳家や国際的な人材になりたい学生が多数います。

日本語教育開始年月日

1985 年 10 月にマドリード自治大学で日本語コースが開設されました。開設当初から国際交流基金からの派遣講師によって授業が行なわれました（派遣は 1999 年度まで）。1993 年より学部の第二外国語科目として開講されました。2003 年からは哲学文学部に開設された東アジア研究科の必須科目となりました。日本語は、アジア・アフリカ学科の「第 1 言語」、現代言語と文化・コミュニケーション学科・スペイン語学科・英語学科の「第 2 言語」そして翻訳通訳学科の「第 4 言語」として履修します。「第 1 言語」以外は学科によって履修年数が異なります。

日本語学習者数

およそ 200 人です。

一クラスの学生数

Japonés 1、2： 90 人

Japonés 3、4： 45 人

Intermedio 1、2： 35 人

Intermedio-Avanzado 1、2： 30 人

主な開講科目について（科目名・学年・時間数等）

Japonés 1、2： １年生、120 時間

Japonés 3、4： ２年生　120 時間

Intermedio 1、2： ３年生　120 時間

Intermedio-Avanzado 1、2： ４年生　120 時間

日本語担当教員数

専任　（日本人：3 名、 スペイン人 2 名）

非常勤（日本人：2 名）

使用教材

みん日: みんなの日本語初級（3A Network） / BKB: Basic Kanji Book（凡人社）/

ＩＫＢ: Intermediate Kanji Book (凡人社) / J Bridge (凡人社)

クラスの様子

授業に出席しないで教師が与えた課題をこなした上で最終試験を受けるシステムで履修する学生もいるので、出席人数は登録人数より少ないです。積極的に発言するクラスとそうではないクラス両方ありました。授業を行う時に、担当先生はスペイン語で活動を説明することが多いですが、基本的に直接法で教えています。学生たちは日本語でプレゼンする機会が少なくないですが、原稿を見て読み上げる学生が多く、原稿を見てもすらすら話せない学生もいました。

付属言語教育機関について（訪問国の言語を教えるコースの有無・授業料・授業編成等）

スペイン語教育機関があります。初級と中級に分けられています。ヨーロッパ系の学生が大半です。全て直接法で授業が行われています。授業料は半期分をまとめて徴収する形態です。

臨地実習に行くのが望ましい時期

２月下旬から３月上旬（１週間の Language Week 活動に参加することができます）

３．宿泊先について

住居の形態

ホテル Express By Hi Tres Cantos から歩いて 5 分間のところに Tres Cantos 鉄道駅があります。学校まで約 10 分でとても便利です。一泊２，７００円らいで、無線 LAN と朝食は無料です。電話（有料）も利用できます。

学校までの行き方

ホテルの最寄駅 Tres Cantos 駅から Cantoblanco Universidad 駅で下車、駅から大学まで徒歩 0 分です。

周辺の環境

電車一本で大学へ行けます。ホテルの周りにはスパー２間あるので、食料品や日用品などの買い物が出来ます。レストランと小さいショッピングモールもあります。

４．その他、補足事項（あれば）

〈その他研究、実習の成果〉

１．施設見学に関して（Ａ４用紙１～２枚で）

１．１　内容

学内には図書館やカフェテリア、郵便局、旅行代理店、書店などが設置されています。図書館には 80 万近くの蔵書があり、学生が勉強できるスペースも少なくありません。ほとんどの教室には、スクリーン、プロジェクターなどの機材が揃っていますが、授業を行う際には、パソコンとスピーカーを別途で借りる必要があります。

構内に何箇所のカフェテリアが設置されているので、昼ごはんの選択肢が豊富で便利です。私がよく利用したカフェテリアは、大体 6 ユーロぐらいです。また、学内にはテニス場やグラウンド、体育館などといった運動のための設備も整っています。学生が運動している姿が多く見られます。室内プールも安く利用できます。

２．２　学んだこと

体育館にカフェテリアがあることに驚きました。部活動や運動の合間に気軽に利用することが出来て、とても便利だと思いました。弓道の部活動の練習を見学し、少人数の指導なので、指導先生と学生たちの関係が近いと感じました。また、学生寮は二つあります。セキュリティがしっかりしていて、ビリヤード場などの娯楽の空間も設置されており、学生たちは楽しい寮生活を送っていると感じました。

構内のいたるところにテーブルが置かれています。そのテーブルで学生たちがパソコンを囲んで大学の課題に取り組んでいる姿がよく見かけます。勉強が熱心の学生が多い印象を受けました。オープンの空間で学習できる以外に、予約が必要なグループ勉強室もあります

２．授業見学に関して（Ａ４用紙１～２枚で）

２．１　内容

今回の実習では、全レベルの授業を見学することができました。聞く、話す、読む、書くという 4 技能を学習できるように、それぞれの授業で特化されています。

話す中心な授業の中で、教科書を使わずにプリントを配ることはほとんどです。プリントの会話文にはアクセントが表記されました。視覚的なマークで声の上がり下がりは、学生の発音にとても役にたちました。アクティビティーのやり方をスペイン語で説明するしかないときがありましが、最初学生は少し戸惑うとしても、例を見せてくれたりすることで、学生が理解できるようになりました。

二年生の漢字の授業で、担当先生は、実物教材を持てきて、すごく学生の興味関心を引き出しました。実物で学生にとって単語のイメージがしやすかったです。テキストに書いてある単語だけだはなく、先生は使えそうな関連単語も紹介したので、学生にとって意味ある指導だと思いました。ただし、学生の集中力が少し落ちているので、私語が多いと感じました。

四年生の学生は、積極的な発言が多く、みんな落ち着いた態度で授業を受けていました。先生の自作の漢字プリント教材では、反対語の漢字と二つ以上の例文も提示しています。反対の意味を持つ漢字を、まとめて覚えてしまうことは、とてもいいアイディアです。ただしほとんど振り仮名を振ってなかったので、四年生にとっても少し難しい漢字があったと思います。その原因もあって、スペイン語で例文を説明するときが多いと感じました。また、スペイン語の外来語を考えてみようという活動で、最初学生が少し戸惑うとしても、先生が質問したり、グループで外来語の例を出したりすることで、ほかのグループの学生も活動の理解ができるようになりました。グループ間の発話で理解の促進が働いたと分かりました。

２．２　学んだこと

学生がトッピクを決め実際にアンケート調査を行い、アンケートの結果を発表する授業を見学しました。担当先生は発表の手順と項目を事前に学生に教える工夫は、とても参考になりました。ただの「アンケートしにきてください」ということではないので、とてもいい活動だと思いました。面白いテーマばかりで、私はスペイン人学生の習慣と考え方を知ることができました。学生たちがアンケート調査の質問項目や結果、気付きを、聴衆に向けて、堂々とプレゼンすることは、順序的に話す練習になったと思います。

多読の授業で、学生が実際に読んでいる様子を観察して、読書を楽しむことに集中している学生が多いと思いました。また、教室で読書を楽しんで、残りは宿題として家で読むこととなっています。その理解度の確認を行っていないようですが、理解度チェックも課したほうがいいと思います。学生に感想文（2、3行のメモ程度でもいい）を書かせることも良いと思いました。

みんなの日本語の第25課の「時」の応用練習として、「はじめて誰かに会った時、日本語で何と言いますか」を学生に考えさせました。それだけではなく、ゲストの私にスペイン語を教えるきっかけを作っていただいて、「はじめて誰かに会った時、スペイン語で何といいますか」に換えました。とてもユニークな活動で、学生がすごく楽しそうに活動している様子が窺いました。理解確認のため、学生に当てて、ゲストの私にスペインを教えることまでの流れもありまして、活動の教案作成にとても

勉強になりました。

３．教壇実習に関して（Ａ４用紙１～２枚で）

３．１　内容（教案、教材等を載せてください。複数コマを担当した場合は、一コマ分）

3 月 7 日（木）	日本の文化について話し合う	10：00―12：00

【時間】	【授業の目的】	【授業手順】	【準備】
導入 20 分	1. 自分の考えを産出。	1. 日本や日本人に対するイメージを考える。 2. 良いところと悪いところをグループで話し合う。 3. グループごとに黒板でリストアップする。	黒板
展開 40 分	2. 日本に親近感を持たせる。 3. 観察で共通点を探しだし、自分達と異なる点を整理する。	1. 映像と写真を見て、どう思うか、考える。質問をする。（不思議に思ったところ） （10 分） 2.「高校生の昼ごはん」を見て、自分が発見したものをグループで、話し合って、クラスで皆と共有する。（20分） 3. 写真で、日本の伝統的な文化を説明する。どう思うか、考える。質問をする。（10 分）	「日本」の映像、PowerPoint
応用 50 分	1. 持っている知識で説明できる。 2. 映像を通しての気づき 3. 日本の伝統と現代文化を考える。	1. 得点制のゲームをする（20 分） 2. 映像を見て、話し合って、理解の確認をする。（15 分） 3. 日本の二つの側面で文化を考えて、グループで話し合う。（15 分）	PowerPoint 、箸と折り紙の人形（プレゼント）、「日本人らしい外国人」と「箸」の映像

【教師発話】

導入

- 日本人はどんな特徴がありますか。
- 日本はどんな国ですか。
- どうして日本が好きですか。どこが好きですか。

展開

- 日本はどんな国ですか。日本の映像をみて見ましょう。
- 日本で生活しています。不思議に思ったことを紹介します。
- ここはどこですか。どんなときの写真ですか。

※ 同じ写真を見て「好きだ」とか「私もやってみたい」と思う人もいるし、「どうしてそんなことをするんだろう」「変だ」と思う人もいるので、押し付けがないように心がけます。

- なにがありますか。なにができますか。
- 隣の人に話し合ってください。どうしてですか。
- スペインではどうですか。スペン人はこのことをしますか。

応用

- 今からゲームします。写真を持ってきました。写真を説明できる人にプレゼントをあげます。
- 私は今日本に住んでいます。もう 3 年目ですから、日本人らしくなっています。
- 今日本で住んでいる日本人らしい外国人の映像を見てみましょう。
- 日本でご飯を食べるときに、お箸を使います。そのお箸はどうやって使いますか。映像を見てみましょう。

※次回の宿題（スペインか日本どちらを選んで発表する）に持って行かせます。

４．２　学んだこと

授業を行う際に、学生の理解度を上げるために、パワーポイントの例文や練習活動では、たくさんのイラストを使いました。文型の意味や難しい単語を英語で表示する工夫をしました。常に学生が理解しているかどうか、質問という形で確認しました。一方、反省点があります。練習と活動の指示が明確じゃなかったことで、今何をやるか分からない学生がいました。活動と活動の区切りをもっとはっきりする必要があると思いました。例えば、「では〇〇練習しましょう」といった活動の予告をしたほうが、学生が授業についてくれやすいと学びました。私は、授業の最初に学生に質問するという形で導入しましたが、今日は何をするか、少し話してから授業を進めたほうが、学生たちが戸惑わないと感じました。また、授業中に話した発音や文法に間違ったところがありました。聞きづらい発音があったので、もう一度日本語の発音とイントネーションを見直してみたいです。

４．今後の「日本語教育学臨地実習」の派遣先・研修対象としての適切性について

４．１　臨地実習の派遣先として

台湾人の私は、スペインに訪問する時にビザが必要ではありません。渡航や乗り続きに特に問題がありませんでした。スペイン語が分からなくても、学生と交流しあい、市内に出ることも不自由を感じません。道に迷っても、スペイン人に聞けば、親切に答えてくれました。したがって、マドリード・アウトノマ大学は臨地実習の派遣先として理想的だと思います。

４．２　全般的に訪問先として

先生たちの研究室に日本語教育関連する教材がたくさん置かれているので、教材作りにとても役に立つと考えられます。先生と様々なレベルの学生と楽しく交流することが出来たので、実習しやすい場所だと思います。

４．３　本学学生の訪問先への貢献

私は日本紹介の授業ではプレゼンの形式で行いました。学生たちが次回の週に自分たちのプレゼンを行うにあたって、私のプレゼンはとても参考になったそうです。特に自分の体験談を盛り込み、学習者たちに日本はどんな国か考えさせました。全体的に学生の日本語力や日本文化に関する知識を向上させました。

積極的な姿勢で学生たちと接したので、一緒に勉強とご食事する以外にも、家までに招待してくれた学生もいました。先生方や学生たちが温かく受け入れてくださったお陰で、今回の臨地実習は、ことばの交流だけではなく、お互いの文化と家庭習慣について話し合うこともできました。

５．４　今後の課題・提案

一週目の授業見学を終えて、学生の趣味とレベルに合わせて、教案を修正しましたが、教案とパワーポイントを出来上がるのは少し遅かったので､先生に助言と確認してもらう時間が少なかったです。もう少し余裕を持って準備したほうがいいです。

私は第二言語としての中国語の授業を見学したいと事前に担当先生に伺いましたので、中国語の先生に紹介してもらい、3 年生の中国語クラスを見学させていただくことができました。したがって事前に希望を具体的に先生たちに相談したからこそ、効果的な実習が行えたと考えます。主体性と計画性が大切です。

「日本語教育学臨地実習」日本語教育機関訪問成果報告書

大学院総合国際学研究科博士前期課程
言語応用専攻日本語教育学専修コース
学籍番号：5112008
氏名：ショフル・ナリントヤ
肖甫爾・那仁図亜

＜訪問先の情報＞

１．訪問に関する一般情報

訪問地（国・都市）

国・都市

イタリア・ヴェネツィア

訪問校・訪問先

大学名

ヴェネツィア，カ・フォスカリ大学　　(Universita Ca'Foscari Venezia)

訪問先を選んだ動機

訪問先を選んだ動機は主に以下の三点である。

まず、自分自身の日本語学習暦としては、日本の大学でマスターし、学習しているのである為、海外の諸国では、日本語教育がどのように行われているのか、特に欧州の国に興味を持っていたからである。

次に、派遣先である欧州の諸大学を知った上、世界的に知られている「アドリア海の女王」・「水の都」の別名を持つ「ヴェネツィア」という町に好奇心を持っていたからである。

最後の理由としては、イタリア国に一番名誉度のある「ヴェネツィア，カ・フォスカリ大学」における日本語教育の実際と現状を知ろうと思ったからである。

訪問期間

2013 月 3 月 5 日 ～ 3 月 20 日

見学・活動した期間：2013 月 3 月 7 日・8 日・11 日・12 日・13 日・14 日・15 日・18 日

(※ 週末と航空運行時間を除く。)

住居・宿泊先

Hotel al graspo de Ua - Venezia

ヴェネツィア，カ・フォスカリ大学まで、徒歩で 25 分～30 分程度の距離であった。

２．訪問機関に関する情報

訪問機関の名称

ヴェネツィア，カ・フォスカリ大学　(Universita Ca'Foscari Venezia)

アジア・地中海アフリカ研究学科

規模（学生数など）

現在は 5 学部，19 学科を持つ総合大学となり、約 18,000 名の学生が学んでいる。

立地（周辺の様子）

イタリアの大学は、一般にキャンパスを持たず、学部・学科ごとに市内の建物に分散されていることが多いのである。ヴェネツィア　カ・フォスカリ大学の場合も同じく、約 30 ヶ所のキャンパスがある。また、世界的に知られている「アドリア海の女王」・「水の都」の別名を持つ有名な「ヴェネツィア」町である為、町全体的には、多くの観光客や移動する通学生が徒歩している雰囲気である。

ヴェネツィア本島では、通学・通勤・観光する人々は、移動する際に、主に水上バスを利用するか、徒歩で通うのが一般的である。本島での賃貸が高い為、多くの学生や勤務者は、本島から離れている

地域で居住するか、4・5 人ぐらいでシェア・ハウスに下宿している場合が多いようである。

交通に関しては、水上バスを利用する場合は、大学から一番近い駅まで徒歩で約 10 分程度、電車を利用する場合は、大学から駅まで徒歩で約 30 分程度かかるのであった。しかしながら、交通運賃料金が高い為、徒歩で通学する学生が多いようである。もしくは定期券を購入して利用すると多少安くなるそうである。

治安に関しては、イタリア国内で、ヴェネツィアが一番治安的に良く、警備がしっかりしている町であると見られた。道が細かく、大・小橋が多い為、迷い子になったり、荷物の運びが大変だったりするのであるが、地図に頼ったり、現地の方に尋ねたり、すると、一週間程度で慣れてくると感じられた。

今回訪問先となった「アジア・地中海アフリカ研究学科」は、ヴェネツィア本島にあるヴェンドラミン・デイ・カルミニという名の館に居を置いている。これは、15 世紀に建てられた 4 階建ての、元は貴族の館で、フランスの作家アンリ・ド・レニエが短期間住んだこともあるそうである。外観は簡素であるが、内装は伝統さ・華麗さがまだ残されている。館は、狭い運河を挟んでカルミニ教会と相対している。このあたりは観光客は訪れることの少ない立地とし、研究と勉学に好適な静かな場所であると感じられた。

学部構成

イタリアで最初の、欧州では二番目のビジネススクールであり、３０ヶ国ほどの言語が教えられている。主に 8 つの学科を、最新の研究プロジェクトや革新的な学習プログラムを実現させながら、充実としたコースが設置されている。

また、カ・フォスカリ大学では、5 つの学科間研究スクールの設置により、複数の研究領域に渡る学際的・統合的な研究を行うことが可能である。

カ・フォスカリ大学では、様々なレベルコースを擁し、イタリア語をはじめ、英語、日本語、中国語などのような言語で受講することができる。3 年制の学士課程は 15 コース、専門課程は 30 コース、32 のマスタ・コース、更に博士課程の諸コースがある。

また、夏期間には、イタリア人・外国人教授による Summer School がイタリア人・外国人学生・社会人を対象として開講され、学生の履修科目として生学習の一環としても受講できる。

カ・フォスカリ大学は、国際的プログラムお数多く提供されており、5 つの Bachelor Degree コース、13 の Master Programme コース、2 つの Professional's Master Programme コースと 10 の Phd コースがある。

- 上記の内容を簡潔にまとめると、下記の構成になる。
  8-Departments 、6- Interdepartmental Schools 、 Ca' Foscari Challenge School (CFCS) Ca' Foscari Summer School (CFSS) 、Ca' Foscari Graduate School.

学事暦（授業期間／休暇期間）

- 前期：9 月下旬～１月上旬
- 後期：２月下旬～６月中旬
- 冬季試験：１月・２月

- 夏季試験６月・７月
- 秋季試験：９月
- 卒業式：６月・９月・翌年の３月　(年に３回)

以下では、大学 HP による【Academic Calendar 2012/2013】詳しい学業暦を引用・添付する。

【http://www.unive.it/nqcontent.cfm?a_id=15621】参照。

- **授業期間について：**

term/semester	Oct-Nov 29/10-03/11/12	Dec 17-22/12/12	Jan 7/01 - 2/02/13	Mar 18-23/03/13	May 6-11/05/12	May-June 13/05-08/06/13 (A) 20/05-15/06/13 (B)	Sept 2-14/09/13	Jan 2014
Courses held in one term 6-ECTS/CFU courses of the economic and humanities area								
1st term	1		1			1	1	
2nd term		1	1			1	1	
3rd term				1		1	1	1
4th term					1	1	1	1
Semester courses (held in two terms) all the courses of the linguistic and scientific area; courses of the economic and humanities area divided into two terms								
1st semester			2 (C)			1	1	
2nd semester						2 (C) (D)	1	1

- **休暇期間について**

November 1st: All Saints' Day
November 21st: Madonna della Salute
December 8th: Immaculate Conception
December 24th – January 6th: Christmas Holidays
March 31st – April 1st: Easter
April 25th: Liberation Day; Saint Mark's Day – patron of Venice
May 1st: Labour Day
June 2nd: Republic Day
August 15th: Assumption

研修校・研修先の特徴、その国における位置づけ

ヴェネツィア　カ・フォスカリ大学の「カ・フォスカリ」という名は，この学校が，かつてこの町の元首を出したフォスカリ家の館に置かれたことに由来されていたそうで、イタリアにおける日本語教育機関としては、歴史的にも長く、知名度・レベル的にも相当高い大学である。

現在は、主に 5 学部、19 学科を持つ総合大学となり、80,000 名の学生が学んでいるそうである。ヴェネツィア大学では創立時から外国語教育に力が注がれ、現在では 40 カ国語が教授されているのも特色である。

この大学では、単に伝統で立派な講義や図書館に通うということでも、優れた教育を受けるということができるし、芸術・文化・国際的気風、外国との交流など、他では望めない条件の揃う恵まれた環境で、貴重な体験ができる大学であると見られる。ヴェネツィアという場だからこそ得られるものであると強く感じられたのである。

今回、研修・見学先となった「アジア・地中海アフリカ研究学科」では、イタリア随一の日本語専攻コースがあり、３年制学部から大学院博士課程まで勉強することができる。アジア系に関する言語学・経済学・文学などを学んでいる学習者は多くいる。全体で約 900 名程度の学生が日本語・日本文化を専攻している。1 年生は、週数時間の日本語の授業に加え、他にもイタリア語で講義される日本史、日本哲学宗教史、日本文学、日本美術史の授業がある。2 年生からは、古文の授業と日本語以外のアジアの言語の授業が加わるそうである。例えば、中国語・韓国語を選択することができる。3 年生(学士課程修了コース) を終えた学生のうち、専門課程コースへの進学率は約 20%ほどだそうである。

日本の大学では、東京外国語大学、早稲田大学、慶応大学と大学間交流協定がある。また、3 年生の後期（4 月～6 月）に、希望者は文化外国語専門学校、東海大学、九州共立女子大学などへ、３ヶ月間・半年間で日本語研修に留学して単位が認定される制度がある。ですから、毎年 40 名ほどの学習者たちがこの制度を利用して日本へ留学している。

日本語教育開始年月日

- 日本語講座の開始は、創立間もない 1873 年から教授されたのである。
- 日本専攻の開始は、約 1965 年頃である。
- 東アジア学科の開設は、2000 年頃である。
- 最近、正式な名称として「アジア・地中海アフリカ研究学科」になっている。

日本語学習者数

- 学部：１年・２年・３年　（３年制）
- 専門課程：１年・２年　(=日本の修士課程と博士課程に相当する ）
- 学部生から専門課程生まで、登録者は約 900 人ほどである。
- ヴェネツィア カ・フォスカリ大学は国立大学である為、何方でも講義を受けることができる。また、授業への出席率がほぼ重視されていない為、正式的に履修している受講生と、聴講している一般市民・社会人もいるようである為、日本語学習を行っている人数はかなり多いと見られた。
- 試験不合格や留学などのような事情で、留年や学年延長している学習者も多くいるそうである。
- ヴェネツィア カ・フォスカリ大学の日本語学科は、イタリアででは、最も知名度のあり、歴史の

長い背景を持つ研究科である為、他地域から転校・進学してくる学習者も多くいると聞いた。

一クラスの学生数

- 学部１年生：約 400 人
  2 つのクラスに分けられ、それぞれ約 150 人～180 人で登録・受講されている。
- 学部２年生：約 200 人
  2 つのクラスに分かられ、それぞれ約 80 人～100 人で登録・受講されている。
- 学部３年生：約 150 人
  ※　交換留学･就職活動･コース変更などのような事情で、実際に約 50 人で登録･受講されている。
- 専門課程１年生：約 70～80 人
  学部３年生と同じ事情で、実際に約 30 人で登録・受講されている。
- 専門課程２年生：交換留学・卒業論文などの為、ほぼ授業がない。
  しかし、学習者の都合によって、自由授業参加・受講が可能である。

主な開講科目について（科目名・学年・時間数等）

- 日本語 LT1・学部１年生・週 12 時間
  イタリア人教員による授業 8 時間、日本人教員による授業 4 時間
- 日本語 LT2・学部２年生・週６時間
- 日本語 LT3・学部３年生・週５時間
- 日本語 LM1・専門課程１年生・週６時間
- 主に、１年次では、主に【文法・表記・口頭表現・実習・読解】などのような科目名が設置されている。２年次では、主に【字幕・ワークショップ・四技能コース・読解・留学・就職する為の履歴書などの書き方に関する】授業が設置されている。

日本語担当教員数

専任　（日本人：＿8＿名，日本人以外：国籍　＿イタリア人＿　＿6＿名）
非常勤（日本人：＿0＿名，日本人以外：国籍　＿イタリア人＿　＿2＿名）

使用教材

- 『新文化初級』
- 『トトロ』
- 『文化中級』
- 東京外国語大学留学生日本語センターと情報処理センターとの共同開発による日本語を学ぶ為の E-learning 教材【http://jplang.tufs.ac.jp/account/login】　（中級日本語・ppt.で練習用）
- 学部３年生・専門課程生のコースでは、インタネットからダンロードした「新聞記事・論文・文学作品」などのようなものを読解教材として配布し、使用する場合もある。

クラスの様子

- 学部 1・2 年生の授業では、約 100 人から 200 人程度の学習者が受講している為、担当教師は主にノートパソコンで PPT.-プロジェクター・スクリーン・マイクを用いて授業を行っている。教師は一方的に教えているわけではなく、学習者とのコミュニケーションも大切にしながら、授業の雰囲気がとても活発であった。特に漢字表記の授業と文法の授業であった。
- 会話の授業では、「復習→導入→練習→宿題」のような流れで、学習者に合わせた会話の実践的な会話練習を用いて、主にドリル練習やロールプレー応用練習が行われていた。教師と学習者の熱心や日本語を教える・学ぶ楽しさと工夫を感じられた。
- 読解の授業では、主に「毎日新聞」や「朝日新聞」などのようなニュース記事を用いて、日本政治・経済に関する、最新の情報を事前に閲読・解読させながら、要約発表やデスカッションなどのようなことが行われていた。
- 文法の授業では、東京外国語大学留学生日本語センターと情報処理センターとの共同開発による日本語を学ぶ為の E-learning 教材【http://jplang.tufs.ac.jp/account/login】を用いて、中級コースで確認練習を行っていることに嬉しく思った。
- 中級以上の口頭表現・実習の授業では、学習者が実際に調査を行い、データを収集・分析した上で、PPT.を用いてグループ・プレゼンテーションを行うのであった。学習者の日本語レベルの高さ・良さに感心した。
- 授業以外にも、海外の教育機関と共催されている日本語・日本語教育・日本社会文化などに関する研究会やワークショップや講演会が多く開催されており、教員や学習者も積極的に参加していることに感心した。

付属言語教育機関について（訪問国の言語を教えるコースの有無・授業料・授業編成等）

付属言語教育機関については、ヴェネツィア大学では、創立時から外国語教育に力が注がれているようである。現在では、40 カ国語が教授されているのも特色である。

今回は、訪問先となる本学のアジア・地中海アフリカ研究学科しか見学できなかった為、アジア系の中国語と韓国語のコースがあると聞いたが、残念ながら、それぞれコースの授業料や授業編成などに関する調査ができなかったのである。

当然、英語のコースもある。また、実習者の母語であるモンゴル語コースがあるかどうかと興味を持って、お尋ねしてみようと思ったが、残念ながら、何十年前はモンゴル関連するコースがあったようであるが、あまりにも受講生がない為、廃置されたそうである。

臨地実習に行くのが望ましい時期

- 上記にまとめた「授業期間」と「休暇期間」に従えばと良いでしょう。
- 授業期間中には、進級試験・期末試験がある為、それを除いたほうが良いでしょう。
- 例えば、前学期に訪問するなら 3 月～5 月で、後学期に訪問するなら 10 月～12 月である時期が望ましいでしょう。

３．宿泊先について

住居の形態

今回の宿泊先はホテルであった。場所として、ヴェネツィアの大運河のすぐ近く、有名な Riarto

橋のすぐ隣の静かな道に位置している。24 時間対応のフロントで、伝統的な内装の客室で、室内にバスルーム・エアコン・衛星テレビなどが備わり、広々とした心地よい客室であった。料金としては一泊で約 8,000 円ぐらいであった。

徒歩で大学まで約 25 分～30 分程度の距離で、通学する際に、ヴェネツィア町の伝統さ・魅力さを楽しめながら、なかなか味わえない通学気分で、良い思い出に残ると実感した。

大学には学生専用寮があるようで、料金としてはホテルより安く、個室で共同キッチンも付いている為、自炊することができる。事前に担当先生や事務課の担当と予約・宿泊上の手続き上のやり取りを行わなければならないのである。但し、寮に宿泊する場合は、寮と大学の間に大運河がある為、水上バスを利用しなければならないのであり、定期券を購入することをお勧めである。

学校までの行き方

大学の近くまで、水上バスをご利用できるが、観光客を対象として運行している為、チケット料金がかなり高いのである。もし宿泊先から大学まで、どうしても水上バスを利用しなければならない場合は、訪問期間に従って、1 週間か 2 週間の定期券を購入すると安くご利用できるようである。できたら、宿泊先を決める際に、徒歩で大学まで行ける距離の場所のほうが良いでしょう。

周辺の環境

ヴェネツィアは、世界的に知られている「アドリア海の女王」・「水の都」の別名を持つ有名な町である為、伝統で長い歴史を持つ教会・博物館・美術館・広場などが数多くあるのが大変魅力的である。

また、大運河と細い路地が張り巡らされており、多くの観光客や留学生・大学生・土産店・ゴンドラなどで、町全体が異国情緒で、朝から晩まで、とても活気のある町であると感じられた。

つまり、単に伝統で立派な建物に通う・歩くということで、優れた歴史のある町を受けるということができるし、芸術・文化・国際的気風、違う背景を持つ外国人との交流など、他では望めない条件の揃う恵まれた環境で、貴重な体験ができる町であると強く感じられた。

町の治安的にも安全で、現地の方々もとても情熱で・親切であった。

〈その他研究、実習の成果〉

１．施設見学に関して

１．１　内容

ヴェネツィア　カ・フォスカリ大学は、一般にキャンパスを持たず、学部・学科ごとにヴェネツィア市内の建物に分散されていることが多いのであり、約 30 ヶ所のキャンパスがあるらしい。

今回訪問先となった「アジア・地中海アフリカ研究学科」は、ヴェネツィア本島にあるヴェンドラミン・デイ・カルミニという名の館に居を置いている。これは、15 世紀に建てられた 4 階建ての、

元は貴族の館で、フランスの作家アンリ・ド・レニエが短期間住んだこともあるそうである。外観は簡素であるが、内装は伝統さ・華麗さがまだ残されている。館は、狭い運河を挟んでカルミニ教会と相対している。このあたりは観光客が訪れることの少ない立地とし、研究と勉学に好適な静かな場所であると思われている。

アジア・地中海アフリカ研究学科の館内には、図書館や孔子学院がある。二階の図書館で、三回は教員の研究室である。研究会・講演会をはじめ、一部の授業や教員と生徒間の面談などが本館で行うことが多いと見られた。

図書館には、日本関係書籍をはじめ、中国や韓国関係の書籍が数かなり多く、そのうち半数が日本語による出版物であると見られた。また、様々な種類の定期刊行物も所蔵されている。蔵書は分野・時代ともにバランスの良いものであると感じられた。文学については、古典から近現代まで、叢書や歴史や個人全集を含めて集書されている。更に、政治・宗教・文化に関連する書籍も数多く所蔵されていると見られた。もちろん英語や中国語で書かれた日本関係の書籍も充実しているのが多少見られて、非常に充実とした図書施設であると感じられた。

図書以外に、学生がご利用できるパソコン付きの自習室もある。図書室や実習室はいつも学生でいっぱいで、真剣で熱心で勉強している姿に感心した。

教員と生徒の面談に関しては、予約制で、教員の研究室ではなく、専用の共同面談室で行うのが一般的であると聞いた。

授業によって、教室が異なり、更に教室が所属しているキャンパスが異なる為、教員と先生は授業後に、すぐに次の教室・キャンパスへ移動しなければならないのであった。移動する時間はほぼ徒歩で 15 程度の距離であった。放課後、早速帰宅するのが多く見られ、日本の大学のように、遅くまで大学施設を利用したり、部活のような活動をしたり、するなどのような風景はあまり見られなかった。

大人数の授業が行われる教室や図書館などでは、充実とした設備や資料などのようなものは、教室活動には大きな支えになっており、学習者の自律学習・言語習得をにもより良く促す働きにも繋がっているのではないかと思われる。

４．２　学んだこと

大学の施設は、ほぼ伝統で立派な建物で、それを通う・歩くだけで、優れた歴史のある教育を受けるということができるし、芸術・文化・国際的気風、異文化コミュニケーション理解など、アジア国の大学ではなかなか望めない条件の揃う恵まれた環境であると感じられた。

教室・キャンパス間の移動することで、２時間程度の授業・講義後、ちょうど散歩・運動の気持ちで、大・小運河や伝統の建物に癒されながら、リラックスして次の授業へ望み、頑張るというような感想を受けた。

２．授業見学に関して

２．１　内容

２．１．１ 授業外活動について

授業外活動については、主に下記の【Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ】4 つの活動に積極的にご出席・参加した。

- 【授業外活動 Ⅰ 】

時間：2013 年 3 月 7 日（木）

場所：ヴェネツィア,カ・フォスカリ大学　アジア・地中海アフリカ研究学科にある図書館の 2F.教室
内容：早稲田大学の細川英雄先生とヴェネツィア,カ・フォスカリ大学のマルチェッラ・マリオッティ先生による、日本語教育専修に在籍中の早稲田大学の大学院生とヴェネツィア,カ・フォスカリ大学の学部３年生・専門課程生と共同で行ったワークショップの最終日のグループ討論会にご参加させて頂きました。

- 【授業外活動 Ⅱ 】

時間：2013 年 3 月 8 日（金）
『言語文化教育研究会　シリーズ第 12 回　言語教育とアイデンティティ』
場所：Universita Ca'Foscari Venezia,Malcanton Marcora:
Sala Giovanni Morelli,Dorsoduro 3484/D-30123(VE)
主催：言語文化教育研究会
共催：ヴェネツィア,カ・フォスカリ大学　アジア・地中海アフリカ研究学科
内容：第一部　講演
早稲田大学・細川英雄 先生「言語教育におけるメディエーションの意味」
第二部：研究発表
鄭京姫：「自分の居場所からありたい自分像を描いていく<私>の物語」
武藤理恵：「交流の意味を捉え直す――留学生キキにとっての特別な人」
古屋憲章：「アクションリサーチによる教室外日本語学習環境整備の試み」
ナインドルフ会田真理矢：「欧米 2 大学の合同日本語授業を通してアイデンティティについて考える試み」
岡田みなみ、他：「総合活動型日本語教育における対話」
間に、二回質疑応答を行った。最後に、皆で懇親会を行い、交流・情報交換を行った。

- 【授業外活動 Ⅲ 】

時間：2013 年 3 月 12 日（月） 10:30~13:00
場所：Sala A-Palazzo Vendramin,Dorsoduro 3462,Venezia
内容：Prof.Enno.Berndt 氏による「原発」講演会
Ritsumeikan University di Kyoto.Department of Business Administration
テーマ：「Why does Japan play Russian Roulette with its nuclear plants ? 」
主な内容は：①Russian Roulette Earthquakes & Nukes.
②Who plays & gains from Russian Ronlette.
③Current state & Outlook.

- 【授業外活動 Ⅳ 】

時間：2013 年 3 月 12 日（月）17:30~19:00
場所：Venezia,Fondezione Overini Stompolie
内容：Joqueline Berndt 氏（Kyoto SeikoUniversity）
Toshio Miyoke 氏（Universita Ca'Foscari Venezia）

２人専門家による「Manga ——The New Japanese Literature」講演会

２．１．２　授業見学について

● 【授業見学 Ⅰ 】

・ 授業日時： 2013 年 3 月 11 日-(月) 14:00~15:30
・ 対象者・科目名：LT1.2 学部 1.・漢字表記
・ 担当先生：日本人の鈴木正子先生
・ 教材：先生によるオリジナル教材・メディア機器・プリントなどを使用
・ 出席学生数：約 150 人~200 人程度
・ 授業様子・進め方：

ノートパソコン・プロジェクター・前後 2 つスクリーンを用いて授業が行われている。1 コーマで約 15 個の漢字が導入されている。表記的に、それぞれ漢字の書き順を ppt. アニメーションで表示し、部首を色分けし、音・訓読みを両方に、大変分かりやすく・素晴らしい【漢字学習ソフト】を用いながら指導が行われている。また、新出漢字と共に、既習の漢字を使って熟語・例文を作成し、復習・確認練習を行ったり、空中書き順練習をしたり、表記に関する留意点を注目させたり、するような指導方法・教室活動であった。授業は基本的に日本語でるが、意味の説明や指示は多少イタリア語が使われている。宿題はプリント配布である。

● 【授業見学 Ⅱ 】

・ 授業日時：2013 年 3 月 11 日-(月) 15:45~17:15
・ 対象者・科目名：LM1.2 修士 1. 実習・口頭表現
・ 担当先生：日本人の鈴木正子先生
・ 教材：メディア機器・アニメ
・ 出席学生数：約 20 人~30 人程度
・ 授業様子・進め方：

アニメ『鉄腕アトム』を鑑賞させ、アトムの人生はどうなっているのか？ストーリを推測・推理させる活動を行い。アニメの作家が本アニメを作成した目的を考えさせ、どんなメッセージを持っているのか？などのようなトピックに関し、グループ・ディスカッションを行わせ、口頭発表を行う授業であった。他に小説・マンガ・映画を教材として用いられる場合もある。

● 【授業見学 Ⅲ 】

・ 授業日時： 2013 年 3 月 12 日(火) 15:45-17:15
・ 対象者・科目名：LM1.2 修士 1.　文型表現
・ 担当先生：日本人の中山先生
・ 教材：『文化中級日本語 Ⅱ 』
・ 出席学生人数：約 50 人~60 人程度
・ 授業の様子・進め方：

テキストを中心とした授業であった。主に文型表現の「導入→説明→確認→練習→宿題」のような

流れで授業が行われていた。また、「新出語彙の意味を推測させる。」「類似語・反義語を答えさせる。」「例文を作らせる。」「ことわざの解釈。」などのような教室活動が行われていた。最後に、練習を共同で完成し、宿題を出すのであった。

- 【授業見学 Ⅳ 】

・ 授業日時：2013 年 3 月 13 日(水) 10:30~12:00
・ 対象者・科目名：LM1.2 修士 1. 政/経/法・読解
・ 担当先生：イタリア人の Calvetti 先生
・ 教材：生教材で、PC 版-『朝日新聞』・『日本経済新聞』など
・ 出席学生人数：約 15 人～20 人程度
・ 授業の様子・進め方：

人文系学生を対象とし、日本の政治・経済・法律等に関する学習項目。生教材・電子掲示板で、日本新聞記事(朝日新聞・日本経済新聞等)と伊太利新聞記事を比較し、主に客観的に読解・要約・発表などのような活動が行われている。今回の内容は伊太利選挙に関するトピックであった。

- 【授業見学 Ⅴ 】

・ 授業日時：2013 年 3 月 13 日(水) 12:15~13:45
・ 対象者・科目名：LT1.2 学部 1. 会話実習
・ 担当先生：日本人の安田先生
・ 教材：『トトロ』オリジナル教材
・ 出席学生人数：約 150 人~200 人程度
・ 授業の様子・進め方：

イタリア語＋日本語で講義する。ロールプレーイ練習・実演を行わせる。相槌・接続詞・新出語彙/文型を黒板に明記し、説明を行う。豆テストを行い、最後に宿題を出す。

- 【授業見学 Ⅵ 】

・ 授業日時：2013 年 4 月 2 日(水)　15:00~16:20
・ 対象者・科目名：学部 3 年生以上・自由参加会話レッスン
・ 担当先生：日本人の鈴木先生
・ 教材：特になし。
・ 授業の様子・進め方：

先生による自由参加授業で、主にコミュニケーションを重視した実践会話活動。3 年生以上の学習者と敬語を用いた実践会話に共同参加。大学に留学で在籍中の日本人の留学生も毎度複数人数で授業参加している。

- 【授業見学　Ⅶ　】

・ 授業日時：2013 年 3 月 14 日（木) 12:15-13:45
・ 対象者・科目名：LT2.2 学部 2. 後期　文法
・ 担当先生：イタリア人の Negri 先生

・ 出席学生数：約 80~90 人程度
・ 授業の様子・進め方：

担当先生の専門は日本語古文であり、授業は基本的にイタリア語で行われている。授業全体的に主に、PPT.を用いて文法復習→新文法導入→基本練習→確認練習を行う。授業の速度は多少速いと思うが、担当先生の発音が大変きれいで、聞き取りやすく、集中しやすいと感じられた。東京外国語大学留学生日本語センターと情報処理センターとの共同開発による日本語を学ぶ為の E-learning 教材を用いて確認練習が行われる。【http://jplang.tufs.ac.jp/account/login】

● 【授業見学 Ⅷ 】

・ 授業日時： 2013 年 3 月 15 (金) 12:15-13:45
・ 対象者・科目名：LT3.2 学部 3　口頭表現
・ 担当先生：日本人の上田先生
・ 出席学生数：約 60 人~80 人程度
・ 授業の様子・進め方：

中級レベルコースで、今回の授業では、グループ・プレゼンテーション発表であった。全部で 4 つのグループで、それぞれの発表テーマと内容については。以下のようになる。

・ G1:『余暇』――
  イタリア人と日本人の余暇について、実際に 20 歳～25 歳の若者にインタビュー調査を行い、回答データを数字化・グラフにし、両者に比較を行った。
・ G2.『日本人とテクノロジー』
  ヴェネツィア滞在中の日本人観光客者・留学生を対象にし、インタビュー調査を行い、多様な電子用品が日本人に愛されていることを発信し、なかなか面白い発表だった。もしイタリア人との比較を行ったら、より良いプレゼンであったと思われる。
・ G3.『イタリアの映画について』
  主にイタリア映画の歴史について発表を行われ、あまり知られていない情報を紹介され、勉強になったが、スライドが多量な文章で、多少残念だったと思われる。
・ G4.『イタリアの有名な建物』

イタリアの各地域における有名な建物を写真つきで、簡潔にご紹介して頂き、大変興味深い発表だった。機会があったら、是非ともそれぞれの伝統的・歴史的建物を訪ねてみたいと思っている。

各グループが発表した後に、質疑を行い、実習生の我々が主な対象となった。全てのグループが発表終了後に、受講生に各グループに対するコメントを書かせ、先生がそれをまとめて発表を行った。

２．２　学んだこと・感じられたこと・感想

・ 初級レベルコース(学 1・2 年次)では、大人数に対する授業に、教師と学習者間のコミュニケーションが難しいのであるが、教師による教室活動への工夫や学習者による受講・学習態度が大切・必要であると強く感じられた。
・ 中級レベルコース(学部 3 年次)では、単に文法的な指導・学習ではなく、口頭表現、生時事教材、調査実行・データ収集・プレゼンテーション発表などのような、実践的・応用的な教室内・外の活動が大切・必要であると感じられた。

- 修士課程のコースでは、中級レベルコースとほぼ同じ感想である。但し、研究計画書・修士論文に関する作成・発表があまり重視されていないそうで、学習者は着手するにはかなり負担を感じていることが分かった。
- それぞれ学年に所属している学習者は、レベル的に差がかなり異なる為、教師の授業計画・教室活動に多少負担や悩みを与えられているようである。できたら試験評価で、クラス分類したほうがよいでしょうが、現実的に教員人数不足や教室数限られているなどのような問題点によって、なかなか改善しにくい状態であると見られた。
- 全体的に、訪問先となったヴェネツィア,カ・フォスカリ大学の日本語学科の魅力さ、や、担当教員と学習者が日本語・日本語教
-
- 育に対する熱さ・素晴らしさを改めて感じられて、とても感動・感心したのである。

４．今後の「日本語教育学臨地実習」の派遣先・研修対象としての適切性について

４．１　臨地実習の派遣先・全般の訪問先として

- 今回の日本語教育学臨地実習においては、現地の先生方々や学生さんはご多忙の中、実習スケジュールの作成をはじめ、授業参観・見学への歓迎、実習者が授業参加へのサポート、学習者たちとの交流・討論、多様な研究会・ワークショップの開催などを通し、実習者の希望に積極的・協力的に応えようして頂いた為、派遣先として、非常に適していると考えられる。
- ヴェネツィアは、世界的に知られている「アドリア海の女王」・「水の都」の別名を持つ有名な町である為、それを生かした大学のキャンパスも伝統的・魅力的・ユニーク・システムである。また、大運河と細い路地が張り巡らされており、多くの観光客や留学生・大学生で、町全体が異国情緒で、朝から晩まで、とても活気のある町である為、優れた歴史・豊富・多彩のある町を受けるということができるし、芸術・文化・国際的気風、違う背景を持つ外国人との交流など、他では望めない条件の揃う恵まれた環境・システムで、貴重な体験ができる町であると強く感じられた。
- ヴェネツィア大学では、創立時から外国語教育に力が注がれているようである。現在では、40 カ国語が教授されているのも特色である。その中、日本語教育はイタリア国やユーロッパでは知名度の高い教育機関である為、臨地実習の派遣先として適切で、もっと深く交流・支援を行うべきではないかと感じられた。
-

４．２　全般的に訪問先として

- 日本から、日本語教育に関わる大学機関による派遣されている実習生・見学者の訪問が数多く見られた。訪問先として、より良い情報交換・交流・学習の機会ができると感じられた。
- ヴェネツィア町全体的に、徒歩か水上バスを主な交通手段である為、徒歩で通学するのが、なかなか他国では味わえない・触れられない体験であると感じられた。
- 路道が狭く・細かい為、地図に頼るか、現地の人に尋ねるか、また、異なる背景・文化を持つ観光客が数多く滞在中である為、触れ合いを通して、語学勉強・観察やコミュニケーション挑戦・交流するなどには、大変有意義で楽しい体験ができると実感できた。

- 3 月の気候は、ほぼ日本の東京と似ており、雨が降ったり、寒かったり、している為、防寒対策が必要である。
- ヴェネツィア,カ・フォスカリ大学は 30 カほどのキャンパスがある為、出発する前に、訪問先となるキャンパスの所属・地理を確認し、事前に調べといたほうが良いのである。現地・大学に到着してから、大学の地図を手に入れたほうが良いでしょう。

4．3　本学学生の訪問先への貢献

- 授業参加・見学中に、グループワークショップやプレゼンテーション発表会に、サポートしたり、ディスカッションを行ったり、質疑・会話の練習相手として、小さい貢献ができた共に、自分自身も大変良い勉強・体験となったのである。
- 授業と授業間のキャンパス・教室移動をはじめ、多くの学生はヴェネツィア本島から離れているところに居住している為、なかなか学習者との交流時間が少なく残念であったが、キャンパス内で多くの日本語コースの学習者と触れられるが、多くの学習者は内向的・恥ずかしがっているようであると見られ、積極的に話しかけたり、交流したり、することが大切であると感じられた。
- 修士課程生である学生さんがチューターとして、色々サポートして頂けた為、キャンパス・施設・授業科目などをご案内して頂いたり、休日にコーヒーを飲みながら、交流・歓談したり、していて、お互いに情報交換と共に、チューターの励ましともなったようであることに大変嬉しかった。

4　今後の課題・提案

- 今回の実習は、訪問期間の短さや事前の情報交換・設定が不十分である為、主に授業参加・見学・交流で充実に終えたが、教壇に立って実際に模擬授業を行うことができなかったのである。
- 日本語学以外にも、日本研究に関連する古文・文学・歴史・文化的な授業への参加・見学もできたらよかったと思われる。
- もっと現地の教師・学習者との交流の場を作って、日本語教育や日本文化などに関する意見交換会や異文化交流会の機会を作ったほうが、相互的により良い実となる実習となったと思われる。
- 実習生としては、単に現地の日本語教育実態を見学・実習するのではなく、自分が所属している大学の留学生教育センターや日本国内における日本語教育機関のご紹介を、訪問先でプレゼンテーションの形でご紹介・発信することも有意義であろうと思った。
- つまり、事前に希望・提案・情報交換をもっと具体的にできたら、より効果的な実習が行えると考えられる。
- 今回の臨地実習は、自分自身にとっては、非常に有意義で思い出に残る体験となったのである。
- これからも、伝統・魅力のあるヴェネツィア,カ・フォスカリ大学で、多くの交流活動が多様に行われるよう、多くの日本語教育支援活動を与えられるように、心よりお祈りしている。
- 最後に、ヴェネツィア,カ・フォスカリ大学の先生方々や学習者をはじめ、国際交流基金協会、東京外国語大学の教務課・生協、指導教員たちに、大変貴重な機会を作って頂き、大変有意義な体験をさせて頂き、心よりお礼を申し上げます。

大学院総合国際学研究科博士前期課程
言語応用専攻日本語教育学専修コース
学籍番号（半角で）　5111012
氏名　張艶

＜訪問先の情報＞

１．訪問に関する一般情報

訪問地（国・都市）

中国・香港特別行政地区

訪問校・訪問先

Department of Japanese Studies, School of Modern Languages and Cultures,
Faculty of Arts, The University of Hong Kong
香港大学文学院現代語言及文化学部日本研究学科

訪問先を選んだ動機

香港は、国際的な大都市として、中国の文化と西欧の文化を持ち、香港地元の人、中国人及び外国人が同じの場で暮らしているという多文化共存で、非常にオープンなところである。外資系企業が多くあり、その中で日系企業も多数ある。そのような環境における香港、アジアＮＯ．１と言われている香港大学の日本語教育の現場を見学しようと思いました。

訪問期間

2013 年　2 月 18 日～　2 月 25　日

住居・宿泊先

Bridal Tea House Hotel

２．訪問機関に関する情報

訪問機関の名称：

Department of Japanese Studies, School of Modern Languages and Cultures,
Faculty of Arts, The University of Hong Kong
香港大学文学院現代語言及文化学部日本研究学科

規模（学生数など）

290 名くらい

立地（周辺の様子）

香港の西環というところにあり、商業中心地域からやや離れていて、香港地元出身の人が多く暮ら

している町である。ホテルから香港大学までは坂道で、徒歩 10 分の距離である。香港大学は、山の中腹にあるため、大学キャンパス内は、階段、エレベーター、エスカレーターを使っている。商業中心地域に行くときには、バスで、場所により、汽船に乗り換える必要がある。

学部構成

香港大学は総合大学である。文学院、建築学院、経済工商管理学院、歯医学院、工程学院、法律学院、李嘉誠医学院、理学院、社会科学院、教育学院がある。日本研究学科は、文学院の現代語言及文化学院の中にある。

学事暦（授業期間／休暇期間）

前期：9 月 1 日～11 月末

Reading Week　10 月中旬

試験：12 月頭～中旬

後期：1 月中旬～4 月末（旧正月に休みが入る）

研修校・研修先の特徴、その国における位置づけ

香港大学（The University of Hong Kong）は、香港島の西環というところに本部を置き、 1910 年に創立され、香港で最も歴史の古い大学であり、アジア NO. 1 の大学だと言われている。授業はほぼ英語で行われている。

日本語教育開始年月日

1970 年代ごろより、香港大学の Language Centre で、日本語教育が行われていた。1985 年に、日本研究学科が創立された。

日本語学習者数

約 300 人：一年生が 150 人で、二年生が 80 人くらい、三年生が 30～40 人、四年生は 20 人くらい

一クラスの学生数

7 人～30 人

主な開講科目について（科目名・学年・時間数等）

一年生は、日本語初級会話やスキルの授業がある。教科書は、『みんなの日本語』を使っている。スキルとは、「読む」、「書く」、「話す」、「聞く」の四技能のことである。二年生から、書く、読解、会話などにわけられている。四年生の会話の授業では、ディスカッションやスピーチなどの授業が行われている。

日本語担当教員数

専任　（日本人：＿6＿名，日本人以外：国籍＿香港＿＿＿＿＿＿1＿名）

使用教材

一年生：『みんなの日本語Ⅰ』

二年生：『みんなの日本語Ⅱ』

三年生：『留学生の日本語・作文編』

クラスの様子

香港大学では、一年生の時は、特に専攻が決まらずに、二年生から専攻を選択するようである。二年生からは、日本語クラスの中に、日本語専攻ではない学生も一緒に日本語の授業を受けられる。また、学生のレベルにより、例えば二年生と三年生が一緒に授業を受けることができる。また、学生は香港や中国以外の国からの学生もいる。

授業はほぼ日本語で行われている。ただし、初級の授業では、学生の理解度を配慮し、英語で意味を解釈したりしている。また、学生が発言しやすい自由な雰囲気で、授業中に、学生たちも積極的に発言している。

付属言語教育機関について（訪問国の言語を教えるコースの有無・授業料・授業編成等）

香港大学の SPACE（香港大学所属の生涯学習プログラム）で、広東語を取ることができる。基本的は社会人向けで、授業料が割と高く、授業時間もほぼ夜 19 時から 22 時までの 3 時間である。

臨地実習に行くのが望ましい時期

旧正月の休み期間の後に行くほうが望ましい。また、期間は２週間以上にしたら、もっと多くの授業が見学できる。今回は、3 月に、香港で暮らしているに日本人との交流会など活動が多くて、授業中もそのための準備をしていた。もう少しいれば、その活動にも参加できると思う。

３．宿泊先について

住居の形態

学校の近くにあるホテルに住んでいた。学校まで徒歩 10 分の距離である。ホテルの周りに、コンビニやスーパー、飲食店などが多くあり、生活には非常に便利である。

ホテル内には、テレビや冷蔵庫、ドライヤーなど必要な用品はほぼ揃えている。インターネットにも無料でつながるが、夜になると、ウェブページが開けないことが多かった。

学校までの行き方

香港大学までは、徒歩 10 分くらいで到着できる。日本研究学科のある講義棟までは、徒歩 20 分以上はかかる。香港大学キャンパス内は、階段やエレベーターなどがあり、教室を探すのに時間がかかった。到着した日に、一回学校への道を探した。

周辺の環境

香港大学の近くは、店が少ないが、住んでいるところは、生活には非常に便利である。コンビニやスーパー、飲食店、お土産の店などたくさんある。

４．その他、補足事項

空気が日本よりあまりよくない。気候に関しては、今回は、ほぼ 17～24 度までで、服二枚くらいでちょうど良い。夜になるとやや寒くなるため、もう一枚添えた。

〈その他研究、実習の成果〉

１．施設見学に関して

１．１　内容

香港大学は、総合大学であるため、学内が広く、さまざまな講義棟がある。特に、去年から、新しいキャンパスができた。そのため、学校内での移動も、非常に時間がかかる。日本研究学科は、現在新しいキャンパスに引っ越したため、香港大学の正門からやや離れている奥の方にある。また、香港大学は、山の中腹にあるため、学校の中では、学校の奥に行けばいくほど上がっていくため、ほぼ階段やエレベーター、エスカレーターを使って移動している。

香港大学の日本研究学科では、すべての授業が同じ講義棟にあるわけではなく、違う講義棟にある場合もある。移動するのに時間がかかった。それに、新しいキャンパスにある講義棟と講義棟の間に、３階などでも通る道があるため、その道がわかれば便利になる。ただし、やや複雑で、迷ってしまう可能性があるため、事前に道を覚えておくほうがよい。

日本研究学科では、一クラスの人数は、7 人～30 人であるため、人数が少ないクラスは、小教室で、人数が多いクラスは、大教室で授業を行っている。各教室には、パソコンやスクリーンなど新しいプロジェクト設備が備わっている。また、語学専用教室があり、学生一人にパソコン一台付の教室で、スキルの授業や会話の授業によく使われている教室である。

コピーや印刷などが必要な場合は、教師専用のオフィスがある。今回は、香港大学の先生のご案内により、使用させていただいた。学校内では、無線のインターネットが飛んでいる。無料でつながるし、スピードが速くて便利である。

また、学生の勉強室は、非常に広く、自由でオープンな空間が設けられている。それに、教室に囲まれている真ん中に通路でありながらも、大きな勉強室が設けられているフロアもある。学生ではなくても勉強室の利用が可能である。

学内には、図書館や学食、スターバーなどのコーヒーショップ、普通の飲食店、大学生協などがあり、非常に便利である。それに、カードではなく、現金で支払う。それに、学校内の飲食店は外の店より値段が安いため、昼ごはんや晩ごはんは、ここで済ませてもよいと思う。スターバーも外よりややすくなっているようである。

５．２　学んだこと

香港に到着した日に、明るいうちに、すぐ学校の場所及び日本研究学科のあるキャンパスへの道を探しておくほうがよい。翌日に遅刻しないように、香港に到着した日に、あらかじめ学校への道や学校内の道を探してみた。日本研究学科が新しいキャンパスに引っ越したと事前に教えていただいたため、新しいキャンパスにある日本研究学科への道も探した。ホテルから学校への道は、まっすぐに坂道を登って行けばよいため、わかりやすかったが、学校内の道は、講義棟の中を通して、またエレベ

ーターやエスカレーターで上がったりして、複雑でわかりづらかった。初日は、学校の中ではなく、キャンパスの外回りから、新しいキャンパスの側にある入り口まで行って、階段に上り、エレベーターに乗って、新しいキャンパスのグランドについた。

新しいキャンパスでは、教室内の設備が先進的で、語学学習には非常に恵まれた環境である。それに、学生が勉強できる空間が広く、ソファの席もあるし、パソコンの席もある。また、何人かの学生が話し合えるように、場所を区切りした席もある。それに、勉強室ではなく、教室に囲まれている空間の中にあり、通路でもある。次の授業が始まる前に一休みできる場所でもある。授業中に、グループ分けてディスカッションをするというようなクラスは、半分がクラス内で、半分が小さな教室から出て、勉強室でディスカッションをするというようにも利用されている。

２．授業見学に関して

２．１　内容

今回の実習では、以下の 10 クラス（各 2 時間）の授業見学を担当の先生が組んでいただいた。

① 初級　文法

教科書は『みんなの日本語』である。学生は一年生である。最初は、先生から学生にお正月の過ごし方などの質問をし、学生とコミュニケーションをとった。この授業では、主に動詞テ形についての内容であった。授業は、日本語が多く使われているが、意味を説明するときには英語も使われている。学生は、先生に質問する際には、ほとんど英語を使っていた。

② 中級　書く

最初は、学生の宿題のチェックをしていた。宿題の内容は、ある文章を要約することである。授業中には、学生全員の要約文を提示し、それぞれの要約文について学生に評価していただいた。その次は、3 月に「Japan Month 2013」という活動があるようで、その活動に関して少し説明した。最後は、俳句についての内容であった。俳句をいくつか読んでもらい、作者がどのような感情を表しているかなどを学生たちで話し合いながら考えていた。

③ 中級　会話

最初は、ウォーミングアップとして、学生にお正月の過ごし方などに関して質問をした。その後は、「千与千尋」というアニメの中の一部分をシャドーウィングしてもらった。文末のアクセントや感情などが指摘されていた。その次は、みんなにシャドーウィングしてもらった部分の終助詞の意味用法を説明した。

④ 上級　読む

3 月に「Japan Month 2013」という活動があり、その中で「詩のボクシング」という項目がある。この授業では、「詩のボクシング」を見せた。主に、谷川俊太郎とねじめ正一による「詩のボクシング」で、いくつかも見せた。それぞれについて学生に採点し、評価してもらった。

⑤ 中級　スキル

最初はグループディスカッションで、テーマは「カルチャーショック」について、学生たちが各自の経験に関して話し合ってもらった。そのあとは、グループごとに一人ずつ発表してもらった。次に、聴解クイズをやった。最後に、次の週に、香港在住の日本人との交流会があり、そのための注意事項、インタビューをする際のテーマやインタビューの仕方などに関して説明した。

⑥ 初級　スキル

最初は、「今日は何日ですか」のような簡単な質問し、またペアワークで１分ずつ簡単なスピーチをしてもらった。次は、干支に関する資料を配り、学生たちの干支を聞いた。その後、また学生に将来の目標を聞いた。「あなたは何になりたいですか」という話題をだし、「私は子供のころは～、でも今は～」という文型で練習した。話す練習が行われた後、聴解があり、内容も将来の夢に関する会話だった。宿題は「将来の夢」というテーマをめぐり、作文することである。

⑦ 上級　会話

この日の内容は、「自分の意見を主張する」ということである。まず、学生たちに、前回の授業で自分が一番直したいところは何かを聞いて、反省してもらった。次に、「閉じこもりについて」「歴史教育について」などのようなテーマが書かれているレジュメを学生に配った。ペアワークで、レジュメにあるものから一つのテーマを選び出し、ディスカッションしてから、お互いに３分間スピーチをした。この授業では、一人の学生が遅れてきたため、私も一人の学生と組んで参加できた。

⑧ 中級　読む

読解の授業である。段落内容の音読、意味解釈、文法解説という流れでやっていた。先生が質問し、学生に答えてもらうことが多い。また、文章の解説が終わった後、練習問題をし、学生に文章の全体的な構造を考えてもらった。最後に、クイズがあり、内容は、「漢字の読み方」、「助詞」、「接続詞、慣用句」「動詞」、「文の完成」などである。

⑨ 中級　文法

この日の授業では、「辞書形の/名詞　に　使う/便利だ/時間がかかる」という文型をめぐる内容である。まずは、例を挙げながら意味用法を説明した。その次に、「香港ではどこが子供を育てるのにいいですか」を質問し、学生に答えてもらったり、また学生にペアワークで、この文型を使った会話を練習したりした。例文の内容は、ほぼ香港か日本についての割と身近のことが挙げられている。たとえば、結婚式に必要なお金などのお話である。

⑩ 中級　書く

話し言葉を書き言葉へ変更する練習が主な内容であった。まず学生にやってもらってから答えを合わせるというやり方であった。例えば「すごく」という言葉に変更できる書き言葉が複数ある場合には、ほぼすべての答えを引き出すまで学生に答えてもらった。その次に、「というのは～ことだ」の文型練習をしていた。

２．２　学んだこと

どの授業にも、プロジェクトが効果的に使われている。また、授業中には、教師が一方的に話しているのではなく、学生の発話を引き出すために、非常に工夫されている。学生が発話しやすい雰囲気である。また、一回の授業では、一つのテーマをめぐり、広げていき、展開されていく。授業中には、初級クラス以外、ほぼ日本語が使われている。さすが生の日本語という環境の中で、学生のリスニング能力が比較的高いほうだと感じた。授業中の内容も、学生が興味を持っているもの、例えばアニメやドラマなどを題材とされている。ほかに、香港大学のことや香港、日本の文化などがよく話題として挙げられていて、学生とのコミュニケーションが非常にうまく進められている。

また、学生の日本語レベルにより、初級、中級、上級の授業を自由に選択して受けられる。必修項目もあるが、ほかの授業の時間を考慮して授業を選択することができる。また、各授業は、それぞれ独立して、各自のペースで進めていくのではなく、お互いに関連している。

３．教壇実習に関して

３．１　内容

90 分一コマの授業を行った。

2 月 20 日（水）

【授業の目的】
・日本のお正月料理の紹介
・日本の居酒屋での食文化の豆知識

【準備】
PPT、実物、写真、ディスカッションシート

【授業手順】
① 挨拶と私から自己紹介：名前、趣味、夢　1 分
↓1 分
② 学生さんの自己紹介：名前、趣味、夢　6 分
↓7 分
③ お正月の過ごし方①私から、実家と日本での過ごし方、写真を見せる　3 分
↓10 分
④ お正月の過ごし方②学生さんのお正月の過ごし方
↓15 分　　香港では、お正月の食べもの
⑤ おせち料理　　30 分
↓45 分
⑥ 食事のマナー（忘年会、新年会、居酒屋）　　35 分
↓80 分

総まとめ
→90 分

---

⑤おせち料理　　30 分

おせち料理の写真提示→おせち料理の歴史と意味を簡単に説明　5 分
↓
教室活動：二つのグループに分けて、各種の食べ物の意味謎々（質問→ヒント提出→答え）

⑥ 食事のマナー　35 分

- 忘年会、新年会、居酒屋の写真を見せる。　→2、3 分
- 基本マナー：気配り（注文の順番など）→グループディスカッション（10 分）、答合わせ（20 分）
- 実践→道具：お箸（5 分）

↓
まとめ

【ディスカッションシート】

食事のマナー
○×

１、　お箸をお皿やお椀の上にそのまま載せても大丈夫。
２、　焼き鳥は全部お箸で串から外してあげるほうが親切です。
３、　お刺身の醤油皿に、みんなの小皿に醤油を入れてあげるほうが親切です。
４、　から揚げに添えてあるレモンは、絞ってあげるほうが親切です。
５、　料理を取り分けるときに、自分が使っているお箸の逆さのほうで取り分ける。
６、　空いたグラスやお皿は、入口のほうの一か所に集めておきます。
７、　相手が料理を取り外せないときに、お箸で押してあげるほうが親切です。
８、　相手のグラスが空きそうな時に、「次は何を飲みますか」と聞いてあげる。
９、　テーブルの上に、水滴などがこぼしていたら、おしぼりで拭く。
１０、　大皿から料理を直接口に運ぶのではなく、自分の手元の小皿にいったん置いてから食べるべきです。
１１、　相手のグラスにビールが減っていたら、注ぎ足してあげる。

2　学んだこと

今回の模擬授業のクラスは、担当先生により、別の時間を設けて、8 名の学生を募集していただい

たクラスである。時間外にもかかわらず、5 名の先生方にみていただいた。授業中も、教室にあるプロジェクトを使わせていただき、非常に便利だった。

授業は、時間内に内容を終わらせた。なるべく学生に積極的に発言してもらった。日本の文化に関する内容のため、5 名の先生たちにもよくご協力いただき、ディスカッションにご参加いただいた。

反省すべき点に関しては、まず、学生の名前を覚えきれなかったことである。最初に学生が自己紹介をしてもらった時に、席に合わせて名前を記入したが、授業中に、メモが見つからなかった。次に、ディスカッションシートに関する問題であるが、難しい単語の解釈がなかった。学生たちは、みんな 2 年生と 3 年生であったため、ディスカッションシートにあるいくつかの言葉がやや難しくて、質問された。改善法としては、送り仮名をつけたり、単語の意味注釈をつけたりするという工夫をすべきだと思った。最後に、授業の目標が明確ではなかった。授業の内容を決めたときに、ただ文化の紹介及び日本の食文化などを理解してもらおうと思った。授業の内容がありすぎて、目標が不明確になってしまった。

お忙しいところ、ご協力いただいた 5 名の先生及び学生たちに、非常に感謝している。

４．今後の「日本語教育学臨地実習」の派遣先・研修対象としての適切性について

４．１　臨地実習の派遣先として

今回の十日間の実習で、先生方、学校の事務所の方々、学生たちが非常に協力をしていただき、困ることはなかった。周りの人たちがみんな優しく、困ったらすぐに助けてくださった。また、香港でも交通などが非常に便利であるし、香港の人たちもみんなほとんど英語ができるため、一人での行動も安心できる。学校にとってご都合のよろしい時期に行けば、たくさん勉強できる環境であると思う。

４．２　全般的に訪問先として

香港大学日本研究学科の先生たちは、学生のために、授業だけでなく、周りにある人力資源を効果的に活用し、たくさんの活動を組んでいる。学生たちも、みんなが優秀で、行動力も高い。それに、非常に親切にしてくれた。香港大学の学生たちは、みんな競争意識を持ちながら、お互いに親しく接している。私が刺激されたところが多くある。訪問先としては、非常に優れているところだと考える。

４．３　本学学生の訪問先への貢献

今回の教育実習で、授業中及び授業外に、何人かの学生との交流もあった。就活のことや日本での生活などのことをいろいろと聞かれた。日本での留学経験や生活、日本の就職情報で知っている範囲のことをなるべく伝えていった。ただし、授業外に、もっと多くの学生と交流をし、自分がわかっていることで、学生たちが知りたいことを教えてあげればよかったと思っている。

授業中にも、見学だけでなく、学生たちと一緒に授業を受けるように、積極的にみんなの活動に参加すればよかったと思っている。何人かの先生の授業で、活動に参加したが、見学でもあり、授業を受けるほうであるという立場でいうと、学生との交流ができる非常に良いチャンスだと思っている。

６．４　今後の課題・提案

今回香港大学では 10 間しか滞在していなかったが、もし可能であれば、3 週間くらい滞在できればと思った。一つの授業を少なくとも 2 回以上見学できると、さらに勉強になると思う。

最後に、一人の先生は私と同じく「ポライトネス理論」から、「スピーチレベル・レベル」に関する研究をなさっている先生がいらっしゃった。それに、その先生は、授業中にも「ポライトネス理論」を導入した授業をしているようである。あと一週間くらい滞在できれば、先生の授業が見学できると思った。また、出発する前に、自分のことや実習先での希望などをもっと具体的に提示すれば、より効果的な実習ができると思っている。

「日本語教育学臨地実習」日本語教育機関訪問成果報告書

大学院総合国際学研究科博士前期課程
言語応用専攻日本語教育学専修コース
5111011
陳婉

＜訪問先の情報＞

１．訪問に関する一般情報

訪問地（国・都市）

アメリカ合衆国　ミシガン州　アナーバー(Ann Arbor)市

訪問校・訪問先

ミシガン大学　アジア言語文化学部
（University of Michigan, Department of Asian Languages and Cultures）

訪問先を選んだ動機

有名な日本語教育プログラムで、バラエティ富んだ授業を開講していることを聞いたため
経験豊富な先生方がいらっしゃるため

訪問期間

2013 月 2 月 18　日～2 月 28 日

住居・宿泊先

ホリデイ・イン ＆ スイーツ アナーバー ユニバーシティ オブ ミシガン エリア
(Holiday Inn & Suites Ann Arbor Univ Michigan Area)

２．訪問機関に関する情報

訪問機関の名称

ミシガン大学　アジア言語文化学部
（University of Michigan, Department of Asian Languages and Cultures）

規模（学生数など）

学部生：約 25000 人
大学院生：約 14000 人

立地（周辺の様子）

ミシガン大学のあるアナーバー市は、ミシガン州南東部にある人口 11 万の大学町である。デトロイトから車で 30 分行ける距離にある。学校の周辺はレストラン、スーパー、ダウンタウン、レクリエ

ーション施設等がコンパクトに集約されていて、日常生活において長距離移動をする必要がない。徒歩が少し時間かかるが、バスがたくさん走っているので、とても便利である。

学部構成

文・社会科学、建築、美術、ビジネス、教育、エンジニア、体育、音楽(舞台、ダンス)、資源環境、看護、薬学、パブリックポリシー

学事暦（授業期間／休暇期間）

秋学期　9 月―12 月
冬学期　1 月―4 月
春／夏学期　5 月―8 月

研修校・研修先の特徴、その国における位置づけ

・全米のみならず世界的に高い評価を得る研究機関型総合大学
・特に、医学部、ロースクールが有名である
・今回の研修先の日本語クラスの学生は、日本語を専門としない学生ばかりである

日本語教育開始年月日

日本語学習者数

毎年 750～800 名程度
　初級（1 年生から 2 年生の前半まで）：400 人弱
　中級（2 年生の後半から 3 年生終了まで）：300 人弱
　上級（400 番台）：100 人弱

一クラスの学生数

10～20 名程度

主な開講科目について（科目名・学年・時間数等）

1 年生：	レクチャー	50 分週 2 回
	ドリル	50 分週 3 回
2 年生：	レクチャー	50 分週 2 回
	ドリル	50 分週 3 回
3 年生：		90 分週 3 回
４年生：		
メディアジャパニーズ：		90 分週 3 回
ビジネスジャパニーズ：		90 分週 2 回
アカデミックジャパニーズ：		120 分週 1 回

翻訳コース：　　90 分週 2 回
学年別無の授業
漢字書道コース：　　90 分週 2 回
レジデンシャルカレッジ集中日本語：120 分週 5 回

日本語担当教員数
専任　（日本人：9 名，日本人以外：0 名）
非常勤（日本人：0 名，日本人以外：0 名）

使用教材
1 年：『げんき 1』
2 年：『げんき 2』と『上級へのとびら』
3 年：『上級へのとびら』
4 年：　開講授業によって異なる。詳細は以下の通り。
・メディアジャパニーズ：主に生教材と教師が独自に作成した教材
・ビジネスジャパニーズ：主に生教材と教師が独自に作成した教材
・アカデミックジャパニーズ：
「速読の日本語」と日本語検定試験準備教材各種と教師が作成した教材
・実務翻訳コース：主に生教材と教師が独自に作成した教材

クラスの様子
・非常にモチベーションの高い学生が多い。
・授業の前に小テストで既習知識の定着を確認。
・1 年生と 2 年生のクラスは 50 分で、短い授業時間に対して、内容が盛りだくさんなため、テンポが非常に速い。説明を行うだけの一方的な授業ではなく、学生が日本語を「使える」ようになるための練習の時間が多いようであった。3 年生と 4 年生のクラスは 80 分で、学生にペアワークや発言する機会がとても多くて、学生同士話し合う時間や発表の時間が全体の 7 割以上占めているようであった。低学年のクラスと比べてテンポが落ち着いてはいるが、練習より学生に時間を与え、自分の考えや意見をじっくり考えてもらった上で、日本語を使って自分の意見や考えを述べてもらうような授業であった。
・授業中に様々な質問や、積極的な発言が多く見られた。発言はほとんど日本語で行われる（1 年生のみ質問が英語でなされる場面もあった)。
・教室内では積極的に発言し、教室外では先生方が企画した様々なイベントに積極的に学生が多く、どんな場面でも日本語を使うことをとても楽しんでいるようであった。初級でも学習者同士が日本語でコミュニケーションを図ろうとする様子が見られる。
・日本語環境のない中でいかにして学生のモチベーションを高めるか、ということに対する教師の努力が多く見られた。例えば、授業内では実物や様々な映像（ドラマやニュース）を見せたり、日本の漫画や日本で話題になったツィッターなどを取り上げたりしている。授業外では、テーブルというイベントを設けて、全学年の学生を集めて、学生同士、学生と先生の間の交流を図るため、月に

1 回寿司テーブルというイベントを設けて、全学年の学生を集めて、みんなでお寿司と日本のお菓子を食べながら日本語の勉強や自分の関心や興味について話しているようである。
・ほとんどの教室にプロジェクター等の機器は揃っている。しかし、古い校舎を使う場合は、黒板にマグネットを貼ることもできない教室があるため、教師は工夫して行っている。

付属言語教育機関について（訪問国の言語を教えるコースの有無・授業料・授業編成等）

臨地実習に行くのが望ましい時期
担当教授と相談して決めるのが良い。

３．宿泊先について

住居の形態
滞在したホテル：Holiday Inn Hotel & Suites Ann Arbor Univ. Michigan Area
キャンパスまでシャトルバスで 10 分程度。一泊 105 ドル。

学校までの行き方
事前に予約をすれば、キャンパスまでシャトルバスでの送迎がある。
交渉次第で、近くのスーパーなどにも連れて行ってもらうことも可能である。

周辺の環境
空港からはタクシーで 30 分程度。ホテル周辺はファストフード店とアジアンレストランがある。徒歩 15 分程度のところにショッピングモールがあり、30 分程度のところにスーパーがある。ショッピングモールやスーパーに行く路線バスもある。

４．その他、補足事項

〈その他研究、実習の成果〉
１．施設見学に関して
１．１　内容

６．２　学んだこと

２．授業見学に関して
２．１　内容
・1 年生レクチャー　　『げんき』に沿った文法説明。大教室での、PPT での説明。
・1 年生ドリル　　レクチャーで学んだ文法の発展練習。ペアワークが多い。
・2 年生レクチャー　　『げんき』に沿った文法説明。大教室での、PPT での説明。

・2 年生ドリル　　レクチャーで学んだ文法の発展練習。ペアワークが多い。
・3 年生　　『上級へのとびら』を使用した授業。ペアワークで問題を解いたり、発表したするような練習が多い

・漢字書道コース　　漢字に特化したクラス。前半は漢字の発音について勉強し、後半は書き順の勉強も含め、毎回一つの漢字を練習する。実際に書道を通して、漢字への苦手意識を克服させる。英語が多く用いられる。
・メディアジャパニーズ　　実際の日本のメディアを通して日本、日本文化、日本社会を学ぶ。教科書は用いず、パソコンで動画やウェブサイトなどを見せながら、学生のディスカッションを促す。
・ビジネスジャパニーズ　　学生が主体となった、プロジェクト形式。学生がグループになり課題に対し何らかのプロジェクトを行う。
・アカデミックジャパニーズ　教科書は用いず、学生の発表を通して様々なトピックについてのディスカッション。見学に行った期間のテーマは『正義』であった。
・翻訳コース　　教科書は用いず、教師が課題を出し日英、英日の実際の翻訳を行い、ディスカッション。

２．２　学んだこと

・すべてのレベルの授業を見学することにより、学生がどのようなステップを踏んで学習しているかの段階を見ることができた。
・すべての教師の授業を見学することができたため、教師による様々なティーチング法を見ることができた。授業見学以外、教案会議にも参加させて頂いて、チームティーチングの授業の雰囲気だけではなく、前作業や後報告など教師側の作業も見ることができた。
・1、2 年生はレクチャーとドリルを通して見学することにより、授業のつながりを見ることができた。
・特に上級は教科書を使わずに生教材を使用しているため、どのような生教材が学生に適しているのかを見ることができた。

３．教壇実習に関して

３．１　内容

教壇実習は 2 回行った。3 月 20 日（水）は一年生の授業（50 分）で、3 月 27 日（水）は 3 年生の授業の一部（80 分中 60 分）であった。以下は 3 年生の授業教案である。

3 月 27 日（水）

【授業の目的】
〇学習者：読み物から「俳句・季語の意味、俳句のルール」が分かっているのを確認し、俳句の意味を考えさせる（俳句から情景、季節、作者の気持ちをイメージしてもらう）具体的目標は以下のようである

(1)　俳句とは何か分かる。
(2)　俳句から季節、場所、情景、作者の気持ちなどについて考えさせる【前作業】
(3)　俳句の規則が分かる。
(4)　言葉に季節感があることを伝え、理解してもらう【前作業】
(5)　五七五のリズムに慣れる。
(6)　季語を考えること（アナーバーや故郷ではどんな季語が考えられるか)。

○実習生：(1) 時間の把握。
(2) 語彙や文法のコントロール
(3) 指名の仕方：時間的プレッシャーを与えること

（注：前回の問題点を改善すること（2 回目の実習であるため、一回目のフィードバックで指摘して頂いた欠点をいくつか改善することを目標とした。）

【準備】
授業中使用する PPT を作成
フラッシュカード、写真、レアリアを用意
グループに分かれて活動してもらう際に記入するワークシートを作成

【授業手順】
教材：『上級へのとびら』p. 295
授業展開計画：

13：30－13：40
[単語/漢字]
1)　金曜日小テスト（読み物Ⅰ）範囲の単語・漢字復習
道具：フラッシュカード
注意点：助詞を確認
復習内容：足りる、印象、担任、代、姿、景色、細かい、観察、思い出し、勝手、文章、夢、両手、君、通じる、最大、四季、氷、張る、飛ぶ
足りる⇒2011 年 3 月 11 日の地震のあと、日本は何が足りなかったと思いますか。
→S：水が足りなかったです。電気が足りなかったです。…
両手⇒ジェスチャーで「両足」、「両耳」、「両目」を言わせる。
夢⇒夢「を見る」
通じる⇒マクドナルド、スターバックスという言い方はアメリカでは通じますか。アメリカでは日本語の外来語、カタカナ語「が通じます/は通じません」。
最大の⇒世界最大のディズニーランドはどこですか【王さんに】
→S:世界で最大のディズニーランドはカリフォルニアにあります。
氷⇒冬になると池に「氷が張る」

2) 読み物２のⅡ．1-26 の漢字・単語導入

道具：フラッシュカード

注意点：助詞、

新出単語：俳句、詩、昼寝、浮かぶ、規則、感動、発見、創造、季語、要素、必ず、分類、直接、示す、減少、構成、歌詞

感動する⇒心を動かされることですね。皆さん最近何かに感動したことがありますか。感動した経験がありますか。

誰も答えてくれない場合：皆さんは『レミゼラブル』という映画を見ましたか。見たＡさんは泣きましたか。→S：Ａさんは映画に感動しました。

→S：Ａさんは映画に感動しました。

発見する⇒何か観察して、何か発見したことがありますか。電車のなかで、痴漢（悪い人）を発見したら、どうしますか。単語カード【直接】を出して「直接注意します」を言ってもらうようヒントを与える。

直接⇒【ジェスチャー】ウイルスがあるから、「直接触らないでください」

日食は目に悪いので、「直接見ないでください。」

私と高見さんはいつも学校が終って、スーパーに行って、ホテルに帰りますが、昨日雪がすごかったので、学生に「直接ホテルに帰りました」を言わせる。

想像する⇒イマジネーションですね。今の単語が通じました？

メイドカフェ知っていますか？行ったことありますか。では、「メイドカフェを想像します」私は行ったことがあります。とても面白いですよ。簡単に説明をします。

示す⇒日本ではお酒とタバコを買う時、登録証「を示します」。アメリカではどうですか。

禁煙のマークを見せて、これは何を示すマークですか？

→S:禁煙を示すマークです。

分類する⇒似たようなものをまとめたり、分けたりすることです。例えば、本「を分類する」、写真「を分類する」、ファイル「を分類する」

印象⇒現象、想像【漢字の読み方に要注意】

情景⇒人の心を動かす景色、場面です。景色は自然の眺め、景色です

昼寝する⇒いつ寝ますか、昼寝する人いますか

鑑賞する⇒作品のよさ【いいところ】を味わい、楽しみ、理解することですね。例えば、俳句「を鑑賞する」、詩「を鑑賞する」、趣味のところに映画鑑賞を書く人が多いですね。このような人の趣味は「映画を鑑賞することです」

浮かぶ⇒意味①クリームソーダ飲んだことありますか【PPT①：写真】

コーラフロートですね。コーラの上に「アイスクリームが浮かんでいます」。コーラフロートとは「コーラの上にアイスクリームが浮かんでいる飲み物のことです。」

同じように「コーヒーフロート、メロンソーダ」を練習する。
意味②もう一つの意味がありますね。頭に出てくると言う意味ですね。
例えば、アイディア「が浮かぶ」、考え「が浮かぶ」、疑問「が浮かぶ」、読み物２には「情景が浮かぶ」ですね、読んで情景が浮かぶ俳句がいい俳句ですね。

蝉⇒見せてミシガンにもせみがいますか。せみはいつ鳴きますか。
せみの鳴き声（http://www.youtube.com/watch?v=ZnZ_Wv66ze8）
熊せみ（http://www.youtube.com/watch?v=uU590YfM6RA）

3)　漢字力←時間があれば

『上級へのとびら・漢字力』p．180 問題２の 1)・p．181 問題４の 1)と 5)【PPT②】
１分間を与え、やってからペアで詠ませる。指名して読ませる。

13：40－14：00

4)［読み物２］（p．295）Ⅱ1-14

○　語りかける口調を確認

T：皆さん、読み物２の予習をしましたか。どんな書き方をしていますか。どんなスタイルですか。
→S：
答えた後、プロジェクターで語り口調の部分に紫色の線を引いた本文を見せる。
読む人にたくさん質問をしていますね。話しているようですね。これは「語りかけ口調」と言います【カード】

○　朗読

１人ずつ読ませる（厳しいならペアか全員で）

○　内容質問の１（俳句だけ）を確認

－内容質問１：１文で「俳句」を説明してください【PPT②：】
【PPT②】内容：
「俳句」というのは 17 の音だけで作られる世界で最も短い詩のことです。
答えた後クラス全員に本文のその部分を読ませ、確認にプロジェクターに移して、テキストに色ペンで線を引く。

○　グループに分かれ例の四つの俳句の情景を話し合い、みんなの前で説明させる

－俳句の数を確認
T：俳句を説明した後、俳句の例を挙げましたね。いくつ挙げられていますか。

→S：アメリカの学生が書いた四つの例です。

答えた後、【PPT③】を見せ、3列縦書き、番号を振る①～④）

－時間があったら、クラス全員四つの俳句を読ませる。

－クラス全員でやりながら、俳句を説明するお手本を見せる。

T：先、せみを見ましたね。では、②番の俳句は何を書いたか見てみましょう。

②「子が母が　　呼び合うごとく　　蝉のなく」を例にお手本を見せる。

【ppt④】を提示し、Q１～Q４学生に質問する。答える状況によって、1人や2人を当て、【ppt④】に提示したような長い文章で答えさせる。答えている間に番号を配る。

－ペアで俳句の情景等についてディスカッションし、発表する。

△ペアでディスカッション（番号）【ppt⑤】３－５分

△数ペアに発表してもらい、みんなに何番の俳句かを当てて（ゲストして）もらう。最後にみんなでその俳句を声に出して読む【ppt⑥】

14：00－14：20

5）Ⅱ．15－26

○　俳句の規則：【ppt⑦】

－学生に考えさせる

（【ppt⑦】にある俳句①、③、④を見て学生に共通しているところを質問する）

T:この四つの俳句はどんな共通点（common）がありますか.

→S：季語、五七五、感動と発見

T：誰も言わなければ誘導→季語を指してヒントを与える

→S：季語があります。

T:そうですね、③④は秋、春の午後がありますが、①と②はそれぞれ雪と蝉など子のような言葉に自然や季節感がありますね。

→S：５７５の17音

→S:最後にみんなが発表してくれた作者の気持ち【感動・発見】ありますね。本

T：文にもありますね。これは俳句の規則（ルール）ですね。

○本文を朗読【1人ずつ→ペア】

T：では、詳しくどのような規則があるか一緒に本文を読みましょう。

－本文で俳句の規則を確認

T：俳句を作るには主な規則はいくつありますか。

→S：三つあります。

T：そうですね。では一つ目はなんでしょう。

→S：「はっとした」感動、発見の喜び、想像の楽しさ等を詠み込む

T：「はっとする」の意味はもちろんみんな分かりますよね、じゃみんなでリアクショ

ンしてもらえますか。じゃ、どんな時にはっとしますか。

誰も答えてくれない場合:今アナーバーは毎日雪が降っていて、とても寒いです。でも、日曜日キャンパスツアーをしていた時、店でミシガン大学のポストカードを見て、はいこれですね。夏になると、こんなに緑がいっぱいできれいですねと思って、はっとしました。

また、学校にリスがたくさんいて、人がたち止まると、リスが走ってきて、こうしますね【ジェスチャー】「おいしいものがあったら頂戴」といっているようです。それを見た私は、はっと驚いて、もちろん怖くないですよ、「あ～、可愛い」と思いました。はい、皆さんどうですか。どんな時はっとしますか？はっとした経験がありますか。

→S：

T：いいですね。俳句を詠む（作る）ときに、今皆さん話した感動、喜びなどの気持ちを読み込みますね。「読み込む」の意味は何ですか。

→S:俳句に感動、喜びなどを入れて詠む、作るという意味ですね。

【分かりにくかったらジェスチャー】

T：二つ目の規則はなんでしょう。

→S：季語です。

T：そうですね、では、内容質問１「季語」というのはなんでしょう」を答えてください。【ppt⑧】

→S：

T：はい、そうですね。本文のここにありますね。**【プロジェクターで本文を映し、線を引きながら確認】**

季語はいくつのカテゴリーに分類できますか。

→S:

T：それぞれ何ですか。

→S：直接季節を示す、自然現象、動物・植物、行事・生活

T：では、さっき話し合った４つの俳句の季語はなんですか。どの季節を表しますか。季語のどのカテゴリーに入りますか【ppt⑨】

→S：①雪→冬→自然現象、②蝉→夏→動物、③秋→直接季節を示す、④冬→直接季節を示す

T：では、次の季語はどの季節を表しますかを考えて見ましょう。

はい、左から１人一つずつ読んでください。

→23－26 までの季語②～④を写真で説明し、どの季節か一緒に確認する

春の海→春

夏に入る→夏（夏になる）

秋の宵→秋（秋の夜）

残雪→春（まだ残っている雪）

枯れ野→冬（草がなくなって、何も見えない野原）

五月晴れ→夏（旧暦五月の梅雨の晴れ間、梅雨晴れ、☆旧暦【古いスタイルのカレンダー】の五月は今のカレンダーでは６月ごろで、梅雨の時期です。梅雨とは

雨よく降る時期のことです。6月によく雨が降りますが、たまに晴れます。このような天気は五月晴れと言います)
北風→冬（来たからくるので、寒いですね）
赤とんぼ→秋
猫の恋→春
木の芽→春（☆春先に気にもえでた芽・出てきた芽）
もみじ→秋
田植え→夏（稲の苗を苗代から水田に植え替えること）
こいのぼり→夏（紙や布などで鯉の形に作って、彩色した幟「のぼり」。5月5日の端午の節句に男の子の成長を祝って庭とかベランダ立てる。女の子は3月3日でひな祭りです。）
お正月→冬

－５７５をもう一度口頭で言わせる→分かりやすい句を探す
T：（短冊を黒板に張り、）全部でいくつの音がありますか。音を数えて、俳句の五七五という組み立てにしてください。
用意する俳句：お年玉 もらっ【←一音】てみたら 中からだ

14：20－14：30
6)［季語のディスカッション］
〇ミシガンの春夏秋冬の季語を考えさせる（内容質問2）
〇後で、俳句を作る時のために、ペアやグループで、自然/生活・行事/動物/植物等に分類して、リストを作らせる

５．２　学んだこと

・写真やレアリアを用いながら説明することにより、学生が興味を示し、楽しみながら学べたようである。全体的にクラスは明るい活発な雰囲気が保たれていた。
・学習者の弱点（助詞）を練習に取り入れ、本文内容確認をする際に、なるべく学生に発言をさせようと質問を投げかけるよう心掛けたが、学生から答えが出ない場合、用意したヒントがやや長いため、学習者の発話時間を奪ったようであった。ヒントはシンプルなものにしたほうがよかった。
・ペアワークをすることにより、学生の情意フィルターが下がり、全体を通しての発言も増えたようである。まずは小さなグループで学生に言葉に出すことの重要性を促し、その後全体として発言させるのが良いようである。
・授業の後半は前半より教師の発話が増えた傾向があった。読解の授業ではいかにして教師の発話数を抑え、学生により多く発話してもらうためにとても工夫が必要であることが予め分かった。今後自分の課題として、研究や実践の場で考えていきたい。

４．今後の「日本語教育学臨地実習」の派遣先・研修対象としての適切性について

４．１　臨地実習の派遣先として

教師の数が多くチームティーチングも徹底しているため､実習させて頂いた時間は多くなかったが、とても勉強になった。実習以外、どの先生も快く授業見学を受け入れてくれ、ほとんどすべてのクラスを視察することができた。すべてのレベル、様々な種類の授業を短期間にここまで多く見学できる機会はとても貴重であり、また、様々な教師の教授法を見ることができるためとてもためになると思う。実習、授業見学の他は、授業でのゲストスピーカー、学生のディスカッションのリーダー、先生方の教案会議など、様々な形で授業に参加できたので、今後の臨地実習の派遣先として大変適しているのではないかと考えられる。また、先生方は皆とても実習に協力的で、実習面だけではなく生活面においてもフォローして頂いた。

４．２　全般的に訪問先として

多くの点において、訪問先として適切であると思われる。治安はとてもよく、生活しているうえで危険だと感じたことは一度もない。食事に関しては、ホテル周辺にはあまり食事ができる場所はないが、大学周辺は困ることはない。冬は寒さが厳しく実習中は何度も雪が降ったため、防寒対策は必要である。

４．３　本学学生の訪問先への貢献

一番大きく挙げられることとしては､学生との交流である｡実習中は寿司テーブルや授業後等､様々な形で学生と交流する機会が多く与えられた。学生としても同世代の日本人と交流することはあまりないらしく、留学生とはいえ、日本での留学生生活が長いので、日本の若者像や大学生活のことなどを聞かれた際に、自分なりの印象と中国との相違点などを答えた。これらは学生にとって良い動機付けとなるであろう。また、留学生として、留学に関することや日本語の勉強についても学生たちと話し合って色々アドバイスも与えた。

７．４　今後の課題・提案

日本で勉強している間、教壇に立つ機会が少ないため、今回の実習はとても貴重である。実習授業は２コマしかなかったが、教案の準備からフィードバックまで先方の先生方からたくさん貴重なアドバイスや指摘を頂き、とても勉強になった。プロフェショナルな先生方に認められた部分もあったので、自信につながると思う。また、指摘していただいた欠点や弱点に関して、現場での実践に合わせて理論的にも説明して頂いたため、自分今後の課題をはっきりすることもできたと思う。実習先としてとても適切だと考える。

宿泊に関して、今回泊まっていたホテルとても快適で不便もなかったが、提案として、学生と交流ができるという点では、可能であるならば寮という選択肢もあるかもしれない。また、可能であればより、授業以外の時間を利用して、学生を集め多くの実習ができると良いであろう。

「日本語教育学臨地実習」日本語教育機関訪問成果報告書

大学院総合国際学研究科博士前期課程
言語応用専攻日本語教育学専修コース
学籍番号（5112011）
氏名 トウセンギ

＜訪問先の情報＞

１．訪問に関する一般情報

訪問地（国・都市）

アメリカ・ニューヨーク

訪問校・訪問先

コロンビア大学

訪問先を選んだ動機

コロンビア大学は歴史が長い大学として、世界中で非常に有名であるし、日本語プログラムの規模も大きいから志望した。

訪問期間

2013 月 2 月 20 日～　3 月 7 日

住居・宿泊先

アスターオンザパークホテル

２．訪問機関に関する情報

訪問機関の名称

コロンビア大学・日本語プログラム

規模（学生数など）

コロンビア大学では 2 万人ぐらいの学生がいる。日本語プログラムでは 1 年生から 5 年生までがあって、全部で 200 人がいる。

立地（周辺の様子）

ハーレム区にあるコロンビア大学は自然が良くて、静かなところにある。市内まで地下鉄で 30 分かかる。

学部構成

アート・メディア学院、教育学院、神学院、医学部、法学部などがある。

学事暦（授業期間／休暇期間）

三つの学期で分かれている。学期の始まりはそれぞれ 1 月、5 月、9 月である。

研修校・研修先の特徴、その国における位置づけ

コロンビア大学は 1754 年でアメリカ国王によって立てられた大学で、アメリカのもっとも古くて、有名な大学である。

日本語教育開始年月日

1920 年

日本語学習者数

200 人

一クラスの学生数

1 年生から 5 年生まで合わせて 9 クラスで、ひとつのクラスでは 15 人から 20 人ぐらいがいる。

主な開講科目について（科目名・学年・時間数等）

初級では、2 種類のクラスがある。2 つの学期で初級が終わるクラスと 3 つの学期で初級が終わるクラスがある。そのほかに、3 年生はビジネス日本語、5 年生では落語という科目が開講している。

日本語担当教員数

専任　（日本人：＿8＿名，日本人以外：国籍＿＿＿＿＿＿　＿＿＿名）

非常勤（日本人：＿1＿名，日本人以外：国籍＿＿＿＿＿＿　＿＿＿名）

使用教材

『飛躍』　コロンビア大学の先生たちがコロンビア大学の学生のニーズに沿って、2004 年で作った教材である。

クラスの様子

1 年生から 3 年生まで　60 分の授業で、週 3 回

4 年生　70 分の授業で、週 3 回

5 年生　75 分の授業で、週 2 回

2 年生が終わった時点で新聞が読める。4 年生は、中国史、日本史を日本語で書いている文章を正確に読める。5 年生は日本語能力試験 1 級が合格できるレベルである。

付属言語教育機関について（訪問国の言語を教えるコースの有無・授業料・授業編成等）

臨地実習に行くのが望ましい時期

1 月 10 日から 3 月 20 まで

３．宿泊先について

住居の形態

アスターオンザパークホテル

学校までの行き方

歩いて 25 分

周辺の環境

セントラルパークの隣にあって、静かなところであった。

４．その他、補足事項（あれば）

〈その他研究、実習の成果〉

１．施設見学に関して（Ａ４用紙１～２枚で）

１．１　内容

とてもきれいなキャンパスである。1 つのキャンパス内では、23 個の図書館もあること。教室ではパソコンと PPT ができる施設がそろえている。

７．２　学んだこと

図書館の前では、大きな階段がたくさんあって、学生たちはそこで座ったら、勉強したり、ご飯を食べたりすることができる。学校全体はとても自由な雰囲気があり、学習に集中できる気がした。

２．授業見学に関して（Ａ４用紙１～２枚で）

２．１　内容

今回の臨地実習では、コロンビア大学の日本語プログラムの 1 年生から 5 年生まで、全部 7 人の先生の 13 個の授業を見学した。授業の見学を通して、自分が日本語を勉強した時には経験しなかった新しい授業形式、授業の進め方と教授法などを経験し、いい勉強になった。

２．２　学んだこと

一つ目は、漢字の教え方である。朴先生と立見先生の授業では、漢字を提示する時に、漢字の構造を表す絵を使った。例えば、学習の「習」を教える時には、上は飛んでいる鳥の絵で、下は太陽の絵で提示した。それによって、漢字の形だけではなく、漢字の意味もより分かりやすく理解できるようになると思う。このような漢字の教え方は、欧米人だけではなく、すでに漢字が知っている中国人学習者の興味を引き、漢字の勉強に役に立つと考える。

二つ目は、PPT の使用である。コロンビア大学では、多数の日本語の先生が PPT を使いながら授業をやっている。PPT では、イラスト、分かりやすい絵、実物の写真とかが多く乗せている。例えば、立見先生の授業では、電気製品の値段が書いているチラシを PPT で提示して、学生に数字の読み方を

練習させるのは非常におもしろいと思う。それの使用によって、学習者の興味を引きことができるし、板書の時間も節約できる、とてもいい方法だと思う。自分は中国で日本語を勉強した時には、大学の設備などが整っていなかったので、PPT を使う授業のおもしろさを経験できなかった。これからは中国に帰って、PPT を使う授業形式を中国の大学で広げたいと思う。

三つ目は、全ての先生が授業の前に、新しい内容を学生に予習させたので、授業の中で新しい内容の導入時間を短くして、その代わりに話す機会を多く与えている点である。多くの先生は授業で学生に話す機会を多く与えていて、話す練習を重視している。例えば、渡邊先生の授業では、昔話の文法を導入する前に、学生にペアで自分が好きな昔話について話す時間を多く与えていた。それで学生の

	学習項目	活動	時間配分	目的

興味を引き、文法の授業を面白くやってきた。実際のコミュニケーションする時には、話すことが一番重要だから、話す練習を重視する点はよいと思う。自分が日本語を勉強した時には、予習させることが少なくて、全ての内容が授業で多くの時間をかけて導入されたので、話す練習の時間が少なかった。自分が日本語を教えるとしたら、学生に予習させて、話す練習を多くやらせたいと考える。

四つ目は、授業形式である。コロンビア大学の日本語クラスでは、ディベートと落語を通して授業をやる入戸野先生のクラス、日本の社会問題を研究する松井先生のクラス、ドラマを通して授業をやる江口先生のクラスのどがある。このような授業形式は自分が経験したことがなくて、コロンビア大学ではじめてみた。これらの新しい授業形式を使っている授業では、学生が話す能力のほかに、考える能力の訓練もできるので、とても面白いと思う。中国の大学では、学生の考える力を訓練する授業がなかなかないので、ぜひ以上のような授業形式を中国で広げて行きたいと考える。

五つ目は、特別な単語を教えるときに使われる面白い方法である。例えば、立見先生の木曜日の授業では、着る、かぶる、履くなどの動詞を教える時には、TPR の教授法を使って、学生がみんな立たせて、動作をしながら、「帽子をかぶる、時計をする、めがねをかける、ズボンをはく、靴を履く」などを言わせた。それをした時には、教室の雰囲気もいいし、学生も楽しそうだから、自分もその方法を使ってみたいと考える。

六つ目は、導入の仕方である。岡本先生の授業では、学生に身近なことについて質問して、答えさせるというやりとりで、新しい文法を導入した。その点は、学生にとって非常に面白いと思うので、今度自分も使ってみたいと思う。

今回二週間の見学で、日本語教育のことについていろいろ勉強になった。自分が中国に帰って日本語を教える時には、ぜひ先生たちのいい教育方法を使ってみたいと思う。

前作業（10分）	・会話 （文型２．「Vていただきました」、文型３．「Vてくださいました」）	・イラストから、ストーリーを予想させる ・予想した内容をクラスで共有する ・会話を聞かせる	３分 ５分 ２分	本日の学習内容によって、どのような機能が果たせるようになるかをイメージさせる。
本作業（45分）	・会話 （文型２．「Vていただきました」、文型３．「Vてくださいました」） ・基本練習 ・応用練習	・会話の内容理解を確認できる質問をする（「ミラーさんは小川さんに何をお願いしましたか。」「小川さんは何と答えましたか。」「小川さんはミラーさんに何をお願いしましたか。」「ミラーさんは何と答えましたか。」） １． 例） <前件> 駅(えき)へ行(い)きたいです・ 発(はつ)音(おん)が上(じょう)手(ず)になりたいです・ <後件> ・発(はつ)音(おん)を直(なお)してもらいます ・道(みち)を教(おし)えます <前件><後件>で意味が通るように文を完成させる。 →　駅(えき)へ行(い)きたいんですが、道(みち)を教(おし)えていただけませんか。 →　発(はつ)音(おん)が上(じょう)手(ず)になりたいんですが、発(はつ)音(おん)を直(なお)して　いただけませんか。 ・　自分の役割とタスクを確認する ・　ペアでロールプレイをする ・　ロールプレイを発表する ・　他のペアの発表を聞いて、先生の質問		文脈の理解度を確かめる。 文型に慣れさせる。 文型を何度も口にさせることで、発話を正確かつ流暢にさせる。 実際の場面でも使えるよう、文脈を与えて練習させる。 実際に丁寧な依頼

		（「A さんの役割は何ですか、何を依頼しましたか？」など）を答える ・フィードバックを受ける		ができるようになる
後作業（10分）	・復習	・今日の学習項目のおさらい	・やりとりで確認	

３．教壇実習に関して（Ａ４用紙１～２枚で）

３．１　内容（教案、教材等を載せてください。複数コマを担当した場合は、一コマ分）

【授業手順】

先方の先生とのご相談の結果、授業の実施が難しいとのことで、授業案作成のみとなった。授業案作成に当たっては、各活動の目的を意識することに注意した。なずきあん先生から、目的が文法項目の習得にならないようにとご指導いただいたので、文法ではなく proficiency にもとづいた授業設定をこころがけた。授業案の一部を以下にあげる。

月　日（　）

【授業の目的】
「～ていただく」という文型を身につけさせて、この文型を使って、丁寧に依頼できるようにさせることが目的である。

【準備】
初級の日本語学習者 15 名のクラスを想定し、「みんなの日本語　初級本冊Ⅱ」を教材として使用し、「～ていただく」文型の導入から、会話の導入、基本練習、応用練習と授業のまとめまでの流れを想定し、65 分の授業の教案を作った。

３．２　学んだこと

機会があったら、実際に授業をやって、時間配分は問題があるかどうか、学生がどの程度応用できるかを把握したいと思う。

４．今後の「日本語教育学臨地実習」の派遣先・研修対象としての適切性について

４．１　臨地実習の派遣先として

実際に教えることができないが、授業見学によって勉強になったことが多い。

４．２　全般的に訪問先として

とても有名な大学であるし、日本語プログラムの歴史も長いし、とても適切であると思う。

４．３　本学学生の訪問先への貢献

コロンビア大学では日本人の留学生はとても少ないので、本学学生が行くことによって、コロンビア大学日本語プログラムの学生たちに日本語を話す練習の機会を提供することができる。

４．４　今後の課題・提案

もし機会があったら、模擬授業もやってみたい。

日本語教育学臨地実習」日本語教育機関訪問成果報告書

大学院総合国際学研究科博士前期課程
言語応用専攻日本語教育学専修コース
学籍番号（5111005）

氏名　萩原　温子

＜訪問先の情報＞

１．訪問に関する一般情報

訪問地（国・都市）

ルーマニア・ブカレスト

訪問校・訪問先

ブカレスト大学

訪問先を選んだ動機

東ヨーロッパにおける日本語教育の現状を知るため

訪問期間

2013 月 2 月 24 日～3 月 15 日

住居・宿泊先

ホテル・セントラル

（Hotel Central　所在地：13 Brezoianu str, District 1, Bucharest ROMANIA）

２．訪問機関に関する情報

訪問機関の名称

ブカレスト大学　外国語外国文学部東洋言語学科日本語専攻（日本語学科）

規模（学生数など）

立地（周辺の様子）

ブカレスト大学のキャンパスは中心部いくつかある。日本語学科のある外国語学部は市内の中心部である大学広場（Piata Universitatii）とロマーナ広場（Piata Romana）を結ぶ幹線道路の路地裏にあり、交通の便もいい。大学周辺はスーパーやレストラン、両替所などもある。

学部構成

学事暦（授業期間／休暇期間）

研修校・研修先の特徴、その国における位置づけ

日本語教育開始年月日

副専攻：1975 年から

専攻：1987 年から

国際交流基金からの日本語教師派遣は 1978 年から行われている。

日本語学習者数

一クラスの学生数

学部１年生：約５０名

学部２年生：約４０名

学部３年生：約４０名

（学部は授業によってはＡクラスとＢクラスの２つに分かれることがある）

修士１年生：約１５名

修士２年生：約１５名

主な開講科目について（科目名・学年・時間数等）

１コマ＝１２０分

●Stractura Limbii：日本語言語学（１年生１コマ、２年生１コマ、３年生１コマ）

日本語文法・日本語言語学について開講されている授業。ルーマニア人の教員が主にルーマニア語で担当している。

●Practica Limbii：日本語演習（１年生３コマ、２年生３コマ、３年生３コマ）

各学年ごと使用教材があり、その教材に沿って行われる。ブカレスト大学に所属するルーマニア人教員と国際交流基金から派遣されている専門家と指導助手とのチーム･ティーチングで行われている。

●Curs Optional：選択科目（３年生２コマ）

ルーマニア人の教員の国際交流基金から派遣されている専門家が行なっている。セメスターごとに授業内容が異なる。今回授業見学させて頂いたのは国際交流基金の専門家の先生が「敬語」をテーマにした授業を担当されていた。

●その他：

文学・歴史などに関して、ルーマニア人の教員がルーマニア語で行なっている

●Masterat：修士演習

日本文化、日本人論、歴史について修士課程の学生のために開講されている授業。ルーマニア人の教員がルーマニア語で行なっている。見学した授業の中には、ビジネス日本語に関する授業も開講されていた。

日本語担当教員数

専任　（日本人：＿＿＿名，日本人以外：国籍＿＿＿＿＿＿　＿＿＿名）

非常勤（日本人：＿＿＿名，日本人以外：国籍＿＿＿＿＿＿　＿＿＿名）
国際交流基金派遣日本語専門家１名
国際交流基金派遣日本語指導助手１名

使用教材
学部１年生：『日本語初歩』『Basic Kanji Book』
学部２年生：『みんなの日本語　中級』『Basic Kanji Book』
学部３年生：『中級を学ぼう』
修士１年生（ビジネス日本語のクラス）：『しごとの日本語　ビジネスマナー編』

クラスの様子
学部１年生は日本語学習歴がおよそ５ヶ月の初級であるため、ルーマニア人の教員は媒介語（ルーマニア語）で細かく丁寧に解説を行なっていた。２年生・３年生は中級程度だが、クラスの中でもレベルの差があるように思われる。特に３年生は、日本に数週間～１年間ほど留学していた学生やＮ２を取得している学生など日本語力が高い学生がいる一方、授業の課題についていくのが精一杯な学生もいた。授業は、日本人教員の場合、プロジェクターにパワーポイントを映して解説する授業が多く、学生はメモを取ったり真剣に先生の話しを聞いていたりしている。また、ルーマニア人教員の場合はルーマニア語への翻訳もよく行われている。修士課程の学生は、学部が他大学であった学生も多く在籍しており、学部のころに第二外国語として専攻していた学生、また独学で学習した学生など様々であるため、クラス内の日本語力に差があるため、講義はルーマニア人の教員が主にルーマニア語で行なっている。

付属言語教育機関について（訪問国の言語を教えるコースの有無・授業料・授業編成等）
情報なし

臨地実習に行くのが望ましい時期
日本の大学の夏休みの期間はルーマニアの大学でも休みに入っているので、授業が行われている２月後半から３月にかけてが望ましいと思われる。しかし、その期間はセメスターの始まりでもありカリキュラムの変更や教員の変更等も重なるため、実習生は訪問先の負担を最小限にするために、その状況をよく理解した上で行動する必要がある。

３．宿泊先について

住居の形態
ホテル・セントラル
１人部屋でシャワー・トイレ付き。部屋には冷蔵庫・テレビ・机・電話等・給湯器・ドライヤーが設置されている。また、無料 Wi-Fi が完備されており、授業の準備や訪問先の先生方や学生と連絡をとるに大変快適であった。毎朝、ビュッフェ形式の朝食付きで１日 6000 円ほどである。

学校までの行き方

ホテルの脇にある大通りレジーナ・エリザベタ通り（Bd. Regina Elizabeta）を 15 分ほど歩くと大学広場（Piata Universitatii）に出る。そこから、ロマーナ広場（Piata Romana）に向かって大通りであるベルチェスク通り（Bd. N Balcescu）を 15 分ほど歩くと、Vodafone の店があるので、そこを右に曲がり、またすぐ左に曲がる。そこから数分後に左手に外国語学部の建物がある。バスでも向かえるが、ブカレスト市内のバスは経路や料金システムが複雑なため、片道 30 分程度であれば徒歩のほうが便利である。

周辺の環境

ホテルのすぐ近くにはマクドナルドやパン屋、24 時間営業のミニスーパーがあるので、飲料水や食料には困らない。ホテルはブカレストの繁華街にあるので、博物館や国民の館、旧市街地など観光地にもアクセスしやすい。

４．その他、補足事項

クリーニングサービスがあるが、少々高額であることと、ホテルの周りにコインランドリーが見当たらなかったので、洗濯は手洗いをしていた。室内は乾燥しているので洗濯物はよく乾くが、早めに土地勘のある学生にコインランドリーがあるかどうか聞いておくと、手間が省けたかもしれない。

水道水は現地の人は沸騰させて飲んでいたが、不安な場合はミネラルウォーターを購入しておくと無難である。

〈その他研究、実習の成果〉

１．施設見学に関して

１．１　内容

今回訪問したのは、ブカレスト大学外国語学科のキャンパスにある日本語科の教室（24 教室と L1 教室）と教員準備室である。

24 教室は教室兼図書室となっており、20 名前ほどの席があり、テレビが設置されている。図書室も兼ねているため、本棚には日本語・日本文化に関する様々な文献が揃っている。また、壁には学生が書いた水墨画や習字が飾られている他、将棋もおいてあり、授業外ではこの部屋で学生同士が将棋をしたり、アクティビティ（日本の合唱の練習等）などにも使われている。机や椅子は大きく、床に固定されているので、自由に動かすことはできない。

L1 教室はラボになっており、パソコンが数十台設置されているが古いパソコンのようで、授業では全く使われていない。24 教室より広く、40 名ほど収容できるが、学年全体での授業では 50 名になることもあるので、教室の両端に椅子を並べて授業を受ける学生もいる。大きめのスクリーンが設置されているので、教員準備室からプロジェクターとノートパソコンを持って来て設置をすると、パワーポイントなどを使用した授業をすることができる。24 教室ど同様、机や椅子は大きく、床に固定されているので、自由に動かすことができない。

教員準備室はコピー機、ノートパソコン、プリンター、プロジェクター等があり、授業で使用するものがひと通り揃っている。また、冷蔵庫や給湯器があるので、休憩の際は先生方が集まってお茶を飲みながら話しをしている。訪問した際は、全部で 6 人の先生方がいらっしゃったが、一度にその部屋に入るにはかなり狭く、学生の面談等する際には廊下に出ていることが多い。

学校全体で無線ＬＡＮが設置されており、インターネットを用いて授業をすることも可能である。

８．２　学んだこと

大学側からの経費削減のため､コピー代はもしくは学生が支払うという現状に驚きを隠せなかった。日本で勉強をしていると、プリントはタダでもらえて当たり前という意識があったため、実際、教壇で実習を行うときには､学生になるべく負担をかけないようにすることを考える必要があった｡また、教室の机が固定されているため、自由に動かせないので、なかなか活発なアクティビティがしづらい環境であった。そのような状況の中でも学生たちが飽きないように、先生方が様々な工夫をされながら授業を行なっていて、大変勉強になった。様々な国に派遣されていた国際交流基金の先生は、それでも、ブカレスト大学の現状は設備が整っている方だとおっしゃっていた。派遣先によっては黒板すらないところもあると伺った。海外で日本語教師をする際には、そこにある限定された設備を最大限に工夫して、いかに学生たちにとって実りのある授業ができるのだろうかということを考える力が必要であると改めて実感した。

２．授業見学に関して

２．１　内容

学部１～３年の Practica Limbii と学部３年生の Curs Optional､修士課程の授業を１年生と２年生の授業を見学させていただいた｡Practica Limbii はルーマニア人教員と日本人教員の授業両方に参加させていただいた。また、Curs Optional は日本人教員、修士課程の授業は１年生・２年生の両方共ルーマニア人教員の授業に参加した。

Practica Limbii はルーマニア人教員と日本人教員とのチーム・ティーチングで行われていた。ルーマニア人教員は、教科書等の文型や単語をルーマニア語で丁寧に解説している他、未習であってもそれと関係がある内容を解説したり､学生に推測させるなどさせたりしていた｡また､翻訳も重視され、ルーマニア語で正しく翻訳できているかしていた。学生に次々と当てて授業を進めているが、その様子がとてもリズミカルであった。日本人教員の場合は、パワーポイント等で映像や写真を見せ、学生のイメージを掴んだ後、文型や単語の解説に入っていた。授業はほとんど日本語で、時々媒介語として英語が使用される程度であった。また、ランダムに学生に当たるように、先に学生にランダムに数字の書かれたカードを配り、クジに当たった学生が発言するといったように、机等動かせない限られた環境の中で、学生が緊張しかつ楽しく授業ができるような工夫が毎回あった。

Curs Opitonal は、日本人教員の授業に参加した。今期は「敬語」がテーマであり、尊敬語・謙譲語・丁重語・丁寧語の復習であった。３年生という卒業年であるため、卒業後でも活用できるようにと、ビジネスの場面を想定して、練習問題・例文等が作成されていた。基本、教師の解説を聞いた後、学生に問題を解いてもらい、その後発表という形式で行われていた。

修士１年生の授業は、ルーマニア人教員が担当のビジネス日本語の授業に参加させていただいた。日本語の授業であると同時に、日本の文化にもかなり注目しており、基本ルーマニア語で教員が説明をしつつ、学生と議論する形で授業がすすめられていた。修士２年生は日本文化に関する授業で、修士１年と同様､ルーマニア人の教員がルーマニア語で学生と議論をかわしつつ授業が進められていた。

２．２　学んだこと

学部の授業では１クラス５０人という大人数クラスにもかかわらず、教室の座席数が足りず、一部の学生たちは机がなく椅子のみでメモをとっているという姿に驚きを隠せなかった。その状態で１コマ２時間の授業を運営する教員の方々の工夫が多く見られた。例えば、前述にあるように、クジでランダムに学生を当てたり、またリズミカルにかつスピーディーに学生に当てることにより、緊張感を持たせつつも、時々教員が冗談を言ったり、面白い資料を見せたりすることで授業の雰囲気を和ませたりとしていて、大変勉強になった。

また、日本人教員とルーマニア人教員のそれぞれの強みを生かした授業に大変感銘を受けた。例えば、日本人教員はティーチャートークで、パワーポイントを使用しながら、その単元に関わるイラスト･写真等提示することによって、学生にイメージを掴み語彙･文型の導入をしていた。その使用されていたイラスト等も最近日本で話題になっている有名人であったりと、海外に住んでいたとしても、日本の最新の情報は常に傾けるべきだと改めて実感した。また、ルーマニア人教員の場合、文法・語彙の解説をルーマニア語で行うだけでなく、的確にその単元を把握しているのか、学生に翻訳させたり、質問したりすることによって、学生も教員も「理解」という観点でお互い安心できているように感じた。今回、日本人教員とルーマニア人教員の授業に参加することによって、改めてネイティブ教員の役割と非ネイティブ教員の役割を考えさせられた。

３．教壇実習に関して

３．１　内容

３月８日（金）午前８：００～１０：００　担当教官：ライアヌ・ルクサンドラ先生

【授業の目的】
学年：学部３年生
使用教材：『中級を学ぼう』　第８課「第一印象」
目標：１分間で第一印象のいい自己紹介をする。
【準備】
パワーポイント・プロジェクター・ノートパソコン
【備考】
自己紹介などの実際のモデルを提示する時は、今回臨地実習として参加した浜津さんにも手伝ってもらった。

【授業手順】
午前８：００～９：００
＊当日予定していた教室が使えないというハプニングがあり、予定より２０分ほど遅れて授業開始。
１．教科書の内容を復習
・パワーポイントを使用しながら、教科書の読解教材の復習。「第一印象」で何が大切か学生に質問しながら、ウォーミング・アップをする。

２.「第一印象」が大切な場面を想像
・学生にどのような場面で「第一印象」が大切か質問をする。授業前に予想していた通り、学校や就職での「面接」という答えが多く返ってきたので、日本の「面接」についての話題へうつす。

３．日本の「面接」について
・日本の「面接」について簡単なプレゼンと実践をする。１０分間の休み時間のあと、１分間で各学生に「第一印象のいい自己紹介」をテーマに実践することを伝える。

午前９：００～１０：００
４．１分間自己紹介
・学生に１分間で自己紹介をしてもらう。聞いている学生は読解教材にあった「姿勢・しぐさ」「声の調子」「内容」の３つの点から発表している学生の評価をする。

５．フィードバックと討論
・全員自己紹介が終わったら、全体的なフィードバックを行う。その後、実際に自己紹介をした感想やルーマニアでの自己紹介との相違点について、学生と討論を行う。

６．２　学んだこと

大学の都合で当日急遽予定していた教室が使えず、別の教室を使うことになり、予定の開始時間より２０分ほど遅れてしまったため、かなり慌てて実習を行なってしまった。しかし、そのような急なハプニングの中でも冷静に対処できるように、準備の段階で当日の授業内容の優先順位をつけておくべきだということ学んだ。良かった点としては、「１分間」という制約を設けたことで、学生に緊張を持たせつつ発表ができたことと、授業時間が計算しやすかったことがあげられる。反省点としては、前半の「自己紹介」や「面接」の説明が多すぎたので、学生に質問をしつつ進められる授業にしたほうが良かったと感じた。また、他の担当した実習にも言えることだが、今回一緒に参加した実習生やブカレスト大学の担当の先生方の多くの準備やアドバイスがあって、授業をすることができた。実際はすべて１人で準備をしなければいけないので、それを考えると、準備にかける時間が少なかったと同時に自分の力の無さを感じた。先生方からは１つ１つ準備にもう少し時間をかけると、スムーズに授業ができたのではということと、また、１つの単語・文法だけでなくそれに関連のあるものをふくらませることで、学生の記憶に残りやすいというアドバイスを頂いた。

４．今後の「日本語教育学臨地実習」の派遣先・研修対象としての適切性について

４．１　臨地実習の派遣先として

大変適切であると思う。派遣期間である２月から３月は学期の変わり目である上、今回は大学主催のシンポジウムも重なってしまったため、先生方にとっては大変忙しい時期であった。それにもかか

わらず、非常に協力的で、こちらが望む授業見学及び実習の日程を考慮に入れて授業のカリキュラムを調整してくださった。また、ルーマニア人教員の方の大学院の授業では、学生にとって年齢の近い日本人と交流できる機会として、急であっても授業の参加に歓迎してくださった。

今後、実習に向かう学生は、多忙な時期であることを考慮に入れ、できれば出発前に教員の方々と連絡を取りつつ、先方に負担をかけないように実習に臨むことが肝心だと思われる。

４．２　全般的に訪問先として

大変適切であると思う。教員の方々他、学生たちも実習生の訪問を歓迎してくださり、空き時間に話しかけてくれたり、お昼や休日等を誘ってくれたり、学生たちとも交流の機会があった。また、今回はブカレスト大学だけでなく、市内にある日本語学校やイオン・クレアンガ高校、経済大学における日本語教育機関を見学する機会もあった。それらもすべて、ブカレスト大学に関係する学生や教員の方々との交流の延長で実現できたことである。実習生の行動や積極性によって、可能性の広がる派遣先であると感じた。

４．３　本学学生の訪問先への貢献

ブカレストに在住している日本人が少なく、普段学生は日本語に接する機会は少ないため、日本語に触れる機会は、授業後のアクティビティやテレビでのアニメなどに限られてしまっている。そのため、大学院生の実習生が訪問することは、現地の学生にとっては年齢の近い日本人の日本語に触れるという意味では貢献できると考えられる。ルーマニア人教員の方からは、大学院のビジネス日本語の授業に見学・実習した際に、日本の就活の現状について知ることができてよかったというコメントを頂いた。また、大学院の学生のうちの１人が日本の若者言葉をテーマにして修論を執筆する予定なので、その学生から簡単なインタビューを受けた。日本に留学・進学を考えている学生もいるため、日本の大学の情報を提供するなど、本学の学生が貢献できることは多いと思う。

８．４　今後の課題・提案

課題としては、４．１でも言及したように、実習期間がカリキュラムの変更期間であるため、なるべく先方の教員の方々に負担をかけないように、よく相談をして実習・見学に望ましいと思われる。また、自分の教壇実習が独立したものではなく、カリキュラムの中のチーム・ティーチングの中の１つに入っているという事をきちんと自覚した上で準備・実習をすることが肝心であると感じた。

また、ブカレスト大学だけでなく、今回訪問した日本語教育機関の学習者は日本文化や日本のサブカルチャーに大変興味を持っていた。そのため、折り紙や日本のお菓子（今回はひな祭りが重なったため、ひなあられなど）を準備していったが、どの機関でも大変喜ばれた。他にも、アニメ・漫画などの知識は簡単でいいのでタイトルとストーリー等を把握していると学生との話をするきっかけの１つになるとも感じた。

今回の実習で感じたことは、実習生の行動力で多くの機会が生まれるということである。学生や教員の方々と交流することによって、今回は様々な機関を訪問することができた。今後派遣される実習生は、現地での様々な出会いを大切にしつつ、有意義な実習生活を過ごしてほしいと願う。

「日本語教育学臨地実習」日本語教育機関訪問成果報告書

大学院総合国際学研究科博士前期課程
言語応用専攻日本語教育学専修コース
学籍番号　5112001
氏名 浜津 大輔

＜訪問先の情報＞

１．訪問に関する一般情報

訪問地（国・都市）

ルーマニア・ブカレスト

訪問校・訪問先

ブカレスト大学

訪問先を選んだ動機

ヨーロッパにおける日本語教育の現状および、CEFR と JF スタンダードが応用の実際に興味があったため。

訪問期間

2013 月 2 月 24 日～3 月 15 日

住居・宿泊先

ホテル・セントラル（Hotel Central　所在地 : 13 Brezoianu str, District 1, Bucharest ROMANIA）

２．訪問機関に関する情報

訪問機関の名称

ブカレスト大学　外国語外国文学部東洋言語学科日本語専攻（日本語学科）

規模（学生数など）

立地（周辺の様子）

当該学部は、「大学広場」（Piata Universitatea）にある中心キャンパスから徒歩で 15 分ほど離れているが、市の中心部を南北に走る幹線道路から一本路地に入った場所にあり、交通の便がいい。

学部構成

学事暦（授業期間／休暇期間）

研修校・研修先の特徴、その国における位置づけ

日本語教育開始年月日

副専攻：1975 年から

専攻：1987 年から

国際交流基金からの日本語教師派遣は 1978 年から行われている。

日本語学習者数

一クラスの学生数

学部１年・・・約 50 人

学部２年・・・約 40 人

学部３年・・・約 40 人

（学部は各学年クラスを A と B の二つのグループに分けて授業を行うこともある）

大学院修士１年・・・約 15 人

大学院修士１年・・・約 15 人

主な開講科目について（科目名・学年・時間数等）

◇各授業の概要

Structura limbii（日本語言語学）

日本語文法、日本語言語学に関する講義で学部生向けに開講されている。ルーマニア人教員が担当しており、ルーマニア語で行われている。

Practica limbii（日本語演習）

日本語教科書（「使用教材」の章参照）を使用した演習で学部生向けに開講されている。ルーマニア人教員が担当するコマと日本人教員が担当するコマがある。なお 1 年生の授業については、上記 Structura limbii と同一テキストを用いて内容を連続させており、週内の決まった時間に文法解説、読解、聴解、語彙、作文課題、漢字テスト、文法ミニテストなどを行うといった授業サイクルが試みられている。

Curs optional（日本語選択）

学部 3 年生に開講されている選択科目。ルーマニア人教員と日本人教員の両方が担当しているが、日本人教員担当コマに関して、訪問したセメスターでは敬語をテーマにした演習が行われていた。

その他（Literatura si cultura、Civilizatie など）

日本文学論、日本文化論といった講義科目がある。ルーマニア人教員が担当している。日本語授業ではないため、本報告では「その他」としてまとめる。

Masterat（修士演習）

修士課程の大学院生に開講されている。日本人論や歴史に関する演習となっているが、ビジネス日本語をテーマにした講座もあった。

◇コマ数一覧

表１に示す。科目名には特に日本語に関する内容の授業を示し、その他文学や人類学といった科目は「その他」の行に示す。数値は週時間数、「○」は開講されていることのみ示す。

表１　日本語学科　コマ数一覧

		学部（3 年制）			大学院（修士、2 年制）	
	科目名	１年	２年	３年	１年	２年
1	Structura limbii	1	1	1	-	-
2	Practica limbii	3	3	3	-	-
3	Curs optional	-	-	2	-	-
4	その他	○	○	○	-	-
5	Masterat	-	-	-	2	3

日本語担当教員数

専任　（日本人：＿＿＿名，日本人以外：国籍＿＿＿＿＿＿　＿＿＿名）

非常勤（日本人：＿＿＿名，日本人以外：国籍＿＿＿＿＿＿　＿＿＿名）

国際交流基金派遣日本語専門家：１名

国際交流基金派遣日本語指導助手：１名

使用教材

学部１年：『日本語初歩』『Basic Kanji Book』

学部２年：『みんなの日本語　中級』『Basic Kanji Book』

学部３年：『中級を学ぼう』

大学院１年（ビジネス日本語クラス）：『しごとの日本語　ビジネスマナー編』

クラスの様子

雰囲気が全体的に明るく、授業中には積極的に質問する姿勢が見られたが、特に課題をやっている時などに、クラス内での日本語のレベル差が見られた。例えば学部１年生は学習歴５ヶ月ほどだが、前年末の日本語能力試験で N5 を取得した学生がいる一方、授業中の課題であまりできていない学生もいた。学部３年になると留学経験者もおり、日本語能力の差はさらに開いていた。なお大学院では日本語学科卒以外の学生もいるが、独学で日本語を身につけた学生もおり、総じて日本語能力は中上級レベルであったと言える。

付属言語教育機関について（訪問国の言語を教えるコースの有無・授業料・授業編成等）

情報無し

臨地実習に行くのが望ましい時期

日本側の長期休暇に合わせるとルーマニアの大学の休暇とも重なり実習が出来ない。そのため休暇が

重ならない２月から３月の時期が適切だと考える。ただしこの時期の訪問先は学期始まりで授業を軌道に乗せる前の最も忙しい時期であり、実習生はその中で活動を行うことになる。実習生はその状況をよく理解した上で、訪問先に過度の負担とならないよう、配慮する必要があると考える。

３．宿泊先について

住居の形態

大学のゲストハウスを借りることが出来るようだが、ホテルも便利である。今回は市中心部にあるホテルに宿泊した。１泊 6,000 円ほどのビジネスホテルだが、ルーマニアの物価が安いため、快適な部屋であった。トイレ、バス、クローゼット、ドライヤー、暖房などの設備はもちろん、給湯器や冷蔵庫、居室内での無料 Wi-Fi 完備など、授業準備などを行うにも最適な環境であったと考える。

学校までの行き方

ホテル脇の大通りを 10 分ほど歩いて大学広場に出て、左に曲がり、バルチェスク通りをまっすぐ歩く。15 分ほど歩き、左手に Vodafone のショップがある角を右へ曲がってすぐに左に折れる。3 分ほど歩くと、ブカレスト大学外国語外国文学部に着く。

周辺の環境

大学へはバスを使っても行けるが、ブカレスト市内のバス経路は複雑で、現地学生も使いこなせないほどであるため、徒歩で大学へ向かうほうがよい。大学の周辺にはパン屋やスーパー、レストランなどが並ぶ繁華街で、学生と食事もできる。またホテルの周辺にもパン屋、マクドナルドや 24 時間営業のミニストアがあり、軽食や飲み物が購入できるので便利である。

４．その他、補足事項

〈その他研究、実習の成果〉

１．施設見学に関して

１．１　内容

外国語外国文学部内 3 階の日本語学科関連施設を見学した。具体的には教員準備室、教室兼日本関連書籍図書館（24 番教室）および大教室（ラボ：L1 教室）を見学した。

教員準備室は日本語学科教員全員で１室を使う。部屋は小さく、室内にはイス数脚と机、冷蔵庫、個人ロッカーや、パソコン、プリンター、コピー機、冷蔵庫、電気ポットなどがあるが、人が 4 人も入るとかなり窮屈になる。また防犯対策のため準備室入口はドアと鉄格子の扉で二重に施錠される。

教室兼図書室は 20 人前後を収容できる教室で、学生は長机に複数人掛けて授業を受ける。またテレビ、ビデオデッキなども設置されていて、AV 素材を視聴できるようになっている。本棚には日本語関連の蔵書がある。水曜日の夕方に貸し出し業務などを行っており、それ以外は全ての本棚が南京錠で施錠されている。

大教室はラボと呼ばれており、40 人前後を収容できる。A+B の合同クラスになると机が足りず、学生は壁近くのイスに座って授業を受ける。20 台前後のパソコンが机に設置されており、スクリーンもあってパワーポイントなどを使った授業ができるようになっているが、設置パソコンはほぼ使用さ

れておらず、むしろ不要となっているという話もある。

なお授業でスピーカー、プロジェクター、教員共用パソコンを使用する場合は、教員準備室から都度持ち出して使用する。

９．２　学んだこと

施設見学を通して学んだことは、充実した教室設備がある環境は大変貴重であるという点である。これまで東京外大の教室内で講義や演習に出席し、模擬実習も行ったが、プロジェクターやスピーカーなどの AV 機材やコピー機、プリンターなどの環境に困ったことがなかった。授業の中では、このような環境はとても豊かで恵まれており、海外には設備が整わない現場もたくさんある、と聞いたことあった。

ブカレスト大学の日本語学科では備え付けのプロジェクターが無いので、必要に応じてセッティングする必要があり、また教室によってはスクリーンが設置できない環境であった。さらに学生の総数に対して教室数が少なく、机が必要数準備できなかったり、学生が入りきらない状況さえあり、設備として充実しているとは言えない環境であった。さらにプリント用の紙も予算削減で購入できず、学生が自分で必要な部数をコピーするという環境にも驚き、もし自分がこのような現場に入ったら、どのように授業を充実させるべきか、対策を考えなければならないと考えた。

このような環境の中で、先生方が日ごろ行っている工夫にとても感銘を受けた。教室内の備品や消耗品の類はとても貴重で､充実した教室活動を行うためにも､このような施設や設備を大切に取扱い、長く用いられるようにする配慮が必要だと考えた。

２．授業見学に関して

２．１　内容

学部 1 年生：日本語演習（A クラスと B クラスおよび合同クラス）

学部 2 年生：日本語演習（A クラスと B クラスおよび合同クラス）

学部 3 年生：日本語演習（合同クラス）、日本語選択

大学院 1 年生：修士演習（ビジネス日本語）

２．２　学んだこと

まず、大教室で 50 人の学生に教えるという授業形態にせざるを得ない状況に驚いた。語学の授業では 15 人程度がベストであると考えるが、ブカレスト大学では教室や予算の不足で大授業にならざるを得ない状況があった。その中で教員の方々が行っている工夫が大変勉強になった。たとえば、このような授業形態では講義形式になってしまい、練習がしにくくなるが、必ず全員に回答させるような授業の進め方をしたり、教室の雰囲気をすぐに感じ取って場の空気を和ませたりしており、緊張と弛緩を的確に使い分けていた点が教室運営の上で非常に勉強になった。さらに授業の速度もかなり早くリズミカルで、学生の集中力をもたせるような工夫が勉強になった。

ネイティブ教員の方の授業では、特にティーチャートークと授業の組み立て方が勉強になった。教壇実習で自分としてもできるだけ意識したが、不要な発話をできるだけ排除して学生が理解できる語彙や文法だけで話すことは非常に難しく、まだまだコントロールする余地があると感じた。また新規

項目の導入でのパワーポイントの使い方やスライドの見易さもとても勉強になった。特に３年生クラスで「第一印象」をテーマにした導入で、３人の写真を挙げて誰が一番お金持ちに見えるかを当てさせるクイズは、学生がスムーズにテーマに入っていけるよう工夫されており、日本語だけでなくテキストのテーマの理解にもつながっていた。

ルーマニア人教員の方の授業について感銘を受けたのは文法説明の部分である。ルーマニア語なので内容は理解できなかったが、母語で学生に文法説明ができる強みを考えさせられた。語学の授業でネイティブ教員と非ネイティブ教員がチームを組むときにどのような役割分担をするべきか、海外でネイティブ教師が持つべき役割は何かという点を多いに考えさせられた。

３．教壇実習に関して

３．１　内容

3 月 4 日（火）第２時限（AM10;00~12:00）
授業名：Practica limbii (ANUL 1)
場所：ブカレスト大学外国語外国文学部　L1 教室
クラス名：ANUL 1 A+B（学部 1 年生クラス、A クラス B クラス合同 50 人）
使用教科書：『日本語初歩』

授業の目的：新出語彙の発音、意味および用法の定着
使用教材：『日本語初歩』第１５課「えいごで 何と 言いますか」新出語彙（pp.125）
教具：ノート PC、プロジェクター、スクリーン
担当教官名：ライアヌ・ルクサンドラ先生

導入項目
＜新出語彙・表現＞ 名詞： （おきた）時、あいさつ、昼間、音読み、りん（林）、くん読み、はやし（林）、牛、ぶた、ねずみ、年（とし）、（お）れい、へんじ 動詞： 言う、知る、わかれる、（犬が）なく、たずねる、たのむ、答える、あやまる、食べおわる 副詞： もっと、ゆっくり、よく、また、はじめて 感動詞： やあ （あいさつことば）： おはよう、おはよう ございます、おやすみなさい、こんばんは、さようなら、ありがとう ございました、どういたしまして、お元気ですか、ごめんなさい、いただきます、ごちそうさま、行って まいります

カタカナ語： グッド モーニング、ワンワン、ニャーニャー、モーモー、ブーブー、チューチュー 表現： ～ましょう

授業の流れ		
活動	内容	使用教具
あいさつ（2 分） 導入・練習（38 分） （全 40 分）	あいさつ、授業内容の説明 新出語彙の導入（つづり、発音、意味） 名詞：つづりおよび絵スライドを使って導入。 　　動物名はクイズ形式で導入する。 動詞：教師の実演による使用例の提示で導入。 副詞：同上 感動詞：同上 あいさつことば：クイズ形式で導入。 カタカナ語： オノマトペは名詞の部分で導入。 外来語はあいさつことばの部分で導入。	なし PC プロジェクター

７．２　学んだこと

本教案では、2 時間 1 コマ（中に 15 分ほどの休憩を含む）の前半部分を筆者が担当した。（後半は同行した実習生が担当した。）

この授業では語彙の導入を扱った。良かった点は、学生からの反応がよかった点である。パワーポイントを用いてイラストや写真を使って語彙の意味を説明したが、例えば「林」の導入の際に「森林」と「林」の写真を対比させて説明した点や、各語彙について例文を提示した点（「あいさつ」の導入の際に「あいさつをします」という実際の使い方を提示した）において、学生がある程度理解できたと考える。また「へんじ」と「あいさつ」の導入の際に、同行した実習生とペアで実演を見せたりし、教員の方からもいいコメントを頂いた。

反省点としては、練習の時間を取れなかった点である。この教案では語彙の説明に終始してしまい、実際にそれを使ってみる練習を取り入れなかったので、意味があまり定着しなかった可能性がある。また、導入語彙に広がりを持たせられなかった点も反省点である。例えば「食べおわる」の導入の際、「食べる」と「おわる」の複合語であることまでは説明したが、「飲みおわる」「読みおわる」といった類似の語彙までは説明しなかった。この点は教員の方からもコメントを頂き、導入語彙に膨らみを持たせることで、学生の知的好奇心を満足させることにつなげることが大切であることを学んだ。ま

た、「知る」の導入の際、活用形の注意点を説明しなかった。（実際には五段動詞だが、一段動詞と勘違いしないようにする点）このように、テキストに載っている情報を説明し、学生が間違えやすかったり、知りたがったりする項目を説明できなかった点が反省点である。今後は自分の説明の内容とともに、学生はどのような情報をほしがるか、学生はどのような間違いをする可能性があるか、など学生の立場で自身の教案を推敲する作業も取り入れようと考える。

なおパワーポイントを使った授業については、知識の定着のためプリントなどの形式で使用したスライドを学生が共有できるようにしておくことが重要であるとの指摘もいただいた。パワーポイントはツールとしては便利だが、授業後に学生が復習できるように配慮してこそ、学生の日本語力の向上につながることを学んだ。

４．今後の「日本語教育学臨地実習」の派遣先・研修対象としての適切性について

４．１　臨地実習の派遣先として

適切であると考える。実習期間である２月から３月の時期は、大学が非常に多忙な時期であるにもかかわらず、教員の方々は実習の趣旨を理解してくださり、とても協力的である。カリキュラムの再編成中にもかかわらず、教壇実習できるよう授業内容を調整して頂いたり、特にルーマニア人教員の方の授業では学生と年齢が近い日本人学生が授業に参加することを喜んでくださった。ビジネスマナーに関する授業や、日本の就職活動について大学院の授業で実習を行った際には、学生のみならず教員の方も、非常に勉強になったとのコメントを頂いた。

今後派遣される実習生は、多忙な時期の中実習生を受け入れてくださることをしっかり頭に入れ、先方の先生方の迷惑にならないよう注意して実習に臨むことが肝要だと考える。

４．２　全般的に訪問先として

適切であると考える。海外での日本語教育の一端を知る上で、教室設備の状況やその中での先生方の工夫など、実習生自身が日本語教育に携わっていくうえでとても多くのことを考えさせてくれる。また教員の方々はとても意欲的で、常に改善を模索しており、その姿勢から学べることは非常に多いと考える。また、実習期間にもよるが市内にはブカレスト大学以外にも日本語教育を行っている機関があり、学生や教員の方々の一部が携わっているので、チャンスがあればそれらの施設も見学することができ、教育機関による差も含めて非常に多くのことが学べる派遣先である。（筆者は今回の実習でブカレスト大学以外にも、ブカレスト経済大学やイオン・クレアンガ高校、桜日本語学校（民間）、ブラショフ日本武蔵野センターといった機関を見学する機会を持つことができた。）

４．３　本学学生の訪問先への貢献

４．１で指摘したが、日本人学生が一定期間授業に参加することはルーマニア人学生にとってとてもいい経験になるとのコメントを頂いている。ルーマニアは在留邦人数が全国で308人しかおらず(平成24年度外務省発表)、ブカレスト中心部を歩いても東アジア人を見かけることはまれである。場合によっては、生まれて初めて会う日本人が実習生となることもある環境で、学習者にとっては日本語ネイティブスピーカーと話すこと自体が貴重な機会である。また、アニメや学生生活といった現代日本の文化を直接伝えることができる点は学生にも教員の方にも有意義であり、実習生が貢献できることは多いと考える。

４．４　今後の課題・提案

派遣される実習生に求められるのは、教員や学生をはじめ派遣先で出会う人々と積極的にコンタクトをとる積極性である。臨地実習の内容は実習生に一任されており、実習をどのようなものにするかは実習生自身のマネージメント能力にかかっている。今回ブカレスト大学にとどまらず、複数の機関を見学できたのは、すべて教員や学生との何気ない雑談から始まった話であり、良好な関係を築けなければ得られなかった経験である。事前の計画も重要だが、実際に現地の人々との交流を通して予定外の収穫が得られることも想定して、実習生は臨地実習に臨むべきであると考える。

一方で、臨地実習の第一目的が派遣先機関で実習を行うことにある点も忘れてはならない。今回は様々な機関を訪問できた一方、教壇実習に割く時間がやや短くなってしまい、一つ一つの教壇実習にもっと準備時間をかけるべきではないか、との指摘もいただいた。今後派遣される実習生には、このような点を意識して有意義な実習生活を送ってもらいたいと考える。

「日本語教育学臨地実習」日本語教育機関訪問成果報告書

大学院総合国際学研究科博士前期課程
言語応用専攻日本語教育学専修コース
5112003
山岸　愛美

＜訪問先の情報＞

１．訪問に関する一般情報

訪問地（国・都市）

中華人民共和国　上海

訪問校・訪問先

上海外国語大学　日本文化経済学院

訪問先を選んだ動機

教壇実習が充実しており、事前準備も確実に行うことが出来るから。
学士の質が高く、有意義な実習になると感じたから。

訪問期間

2013 月 3 月 3 日～3 月 16 日

住居・宿泊先

上海外国語大学　松江キャンパス小別荘

２．訪問機関に関する情報

訪問機関の名称

上海外国語大学　日本文化経済学院

規模（学生数など）

一学年に 6 クラスあり、1~2 組が日本文化、文学のクラス、3 組が高校などから日本語を学んでいる学生のクラス、４組が英語と日本語を重視したバイリンガルクラス、5~6 組が経済なども学ぶクラス。1~2、4~6 クラスは 25~30 名学生が在籍している。3 組は学年により異なるが 10 名前後。

立地（周辺の様子）

学部構成

英語学院、東方語学院、日本文化経済学院、ロシア語学院、国際金融貿易学院、新聞学院など

学事暦（授業期間／休暇期間）

九月から新学期

研修校・研修先の特徴、その国における位置づけ

日本語教育開始年月日

1959 年 2 月

日本語学習者数

一学年およそ 160 名。全体では 640 名前後。

一クラスの学生数

１組～２組は日本文化、日本文学のクラスで一クラス約 30 名、３組は大学入学以前から日本語を学んでいた学生のクラスで一クラス約 10 名、4 組は英語と日本語を重視しているクラスで約 30 名、5~6 組は経済も学ぶクラスで一クラス約 25 名。

主な開講科目について（科目名・学年・時間数等）

二学年日本語関係：精読（今回担当した）、語法、聴力（聴解）、速読、会話、作文、通訳
その他：体育、計算機（コンピューター）、マルクス主義哲学、国際投資など

日本語担当教員数

専任　（日本人：＿＿＿名，日本人以外：国籍＿＿＿＿＿＿　＿＿＿名）
非常勤（日本人：＿＿＿名，日本人以外：国籍＿＿＿＿＿＿　＿＿＿名）
→不明だが、全体では 33 名。

使用教材

『日語総合教程』（実習で用いたのは第四冊、第二課第三課）

クラスの様子

担当したクラスは一週目五組、二週目は二組で、日本語を大学に入ってから学んでいる学習者である。初級終了程度のレベルであった。

付属言語教育機関について（訪問国の言語を教えるコースの有無・授業料・授業編成等）

臨地実習に行くのが望ましい時期

今回の時期が望ましい。

３．宿泊先について

住居の形態

ホテルのような形態であった。二人部屋。ユニットバス、TV、電気ポットなどが備え付けてある。

学校までの行き方

学内にあるため、徒歩。授業をした学院までは徒歩 15 分。

周辺の環境

　地下鉄 9 号線の松江大学城駅が最寄駅であるが、そこから大学までは 20 分以上歩かなければならない。そのためバスやタクシーで大学まで行くことになる。
周辺にはいくつかの大学があり、学生の街といった感じである。そのため学校の前には商店街があり、

買い物には不自由しない。

４．その他、補足事項

特になし。

〈その他研究、実習の成果〉

１．施設見学に関して

１．１　内容

学院内を学生に案内してもらった。日本の建築様式を模した外観で、日本庭園のような庭がある。一階には一年生と二年生の 5,6 組の教室、二階には二年生の 1~4 組と三年生の 5,6 組の教室、和室、資料室、院長室などがある。三階には 3 年生の教室といくつかの教室がある。スクリーン、プロジェクターがある教室が多いが、中にはまだ設置されていない教室もあった。それらが存在する教室では PPT による授業も可能である。暖房、冷房の設備はないため、実習時には寒さ対策が必要である。

１０．２　学んだこと

日本語が一つの学院として独立しており、日本語教育を重視していることがうかがえた。プロジェクター類の設置は昨年より進んでいるとのことで、来年度にはさらに整備されている可能性がある。資料室には日本の雑誌から小説、論文などがあり、貸し出しもできる。和室ではひな人形などが飾られる。

２．授業見学に関して

２．１　内容

『日語総合教程』第四冊　第二課『夕焼け』

吉野弘『夕焼け』の詩とその鑑賞文、会話文、単語の学習、連語の学習、文型の学習、文法講座シリーズ、練習問題からなる。

任先生　第二課『夕焼け』

第二課の初日を見学した。初日では日本の詩について（短歌、俳句など、自由詩について）の導入、新出語句を教えていた。新出語句については例文を提示したり、類義語、対義語などを細かく紹介したりしていた。日本語で教える箇所があり、中国語、日本語の比率は６：４ぐらいであった。

顧先生　第二課『夕焼け』

第二課の初日を見学した。任先生とは異なり、日本の詩についての導入、新出語句、本文の詩を初日で終わらせた。ほとんどが中国語による授業であった。板書は縦書きであった。

２．２　学んだこと

二名の先生の第二課の初日を見学した。それぞれ授業の進め方に差がある。しかし両先生とも日本の詩とは何かという話に時間を取っており、この課では詩の鑑賞ということに重きがあることが分かった。中国の学生は幼いころから中国の詩を暗記するなどしているので、日本の詩につ

いても興味深そうに聞いていた。私が用意していた導入では『夕焼け』の場面である満員電車に関するものであったため、私の導入案ではこの課で何を教えるのかの焦点がずれてしまっていたことに気付いた。

授業では学習者を指名し、単語や例文を読ませることが多かった。また先生の問いかけに反応する学生が多く、学生の積極性が感じられた。両先生とも、本文の範読は行っていなかった。二名の先生方とも授業にめりはりがあり、学生の参加が多かった。また、文法用語を使った説明が多かったのが印象的であった。日本の学校国文法の用語を使用していた。

１１．教壇実習に関して

実習では授業 90 分を 9 回行った。学年は二学年である。

３．１　内容

3 月 11　日（木）第三課　『何のための料理番組』第一段落～三段落

【授業の目的】
第三課の第一段落から第三段落までの語句、文型を理解する。
内容を理解する。
指示語が何を指しているのかを理解する。

【準備】
導入…料理本
単語…日本の新聞のテレビ欄（めじろおし、ワイドショーの説明時）

【授業手順】
8：15　三分間スピーチ（学生一名がスピーチ）
日本に暮らしている中国語があまりできない弟との一日について。
コメントや質問を行う。
8：25　三課の導入
T：みなさん、料理はしますか。
S：反応（みなキッチンのない学生寮で暮らしているため今はしないとの反応が多かった）
T：わたしは料理が苦手です。料理ができません。しかし、いい本を見つけました。見てください。（料理本を開く）写真がたくさんあります。ほかの本より多いです。なので、わかりやすいです。最近、日本では料理をする人が増えてきました。ですからこのような便利な本があります。今日から読む第三課の文章は 1996 年に書かれました。この文章が書かれた時代には料理をしない人が増えていました。どうしてだと思いますか。しかし、料理の番組はたくさんありました。どうしてでしょうか。では三課に入りましょう。
8：30　新出単語
T：ではみなさんで新出語句を読んでください。
S：新出単語を読む

T：アクセントや発音をチェックし訂正。
S：教師の範読の後、リピート
T：ではSさん、読んでください。（学生を一人指名）×２
S：指名された学生が読む
T：アクセントなどを訂正。読んだ学生に繰り返させた後、全体で練習。
S：範読をリピート
T：意味を確認します。
・みずから
T：名詞のとき、自分、自分自身でという意味です。（板書）
例文：自らの力で勝つ、自らを省みる
S：例文をリピート
T：副詞のとき、自分でという意味です。（板書）
例文：自ら考えて発表する。自ら命を絶つ。
S：例文をリピート。
（以下同じようにスナック、ずらっと、めじろおしを導入。）
9：40 本文精読
T：では第一段落から第三段落までをみなさんで読んでください。
S：読む。
T：読みを確認し、アクセント、読み方などを訂正し、範読
S：範読をリピート
T：では第一段落の内容を確認しましょう。（必要に応じてやさしい日本語に変えたりしながら内容を確認する。）
P41　～とされる
T：教科書内の例文を読ませる（学生一名を指名、読み方などの修正があれば行う）
　板書　～とされる＝～と考えられる
　　～と見られる
　　～と認められる
ある考えが一般的なもの、みんなが知っている、そう思っているものだと提示すします。
例文（13 日の金曜日が不吉だとされる理由には～）で説明。
P31　本文で意味の確認。
第一段落の内容確認。設問：そういう理由とはなんですか
　　調理は人間生活で、どのような行動ですか。
S：答える。
8：50　接続詞「が」…例文を読ませる、読みの修正、範読、リピート。
板書して説明　今日は雨だったが、私はバスケットボールをした。
　　今日は雨だった。が、私はバスケットボールをした。
本文中の表現で確認。
8：55　～に限らず…例文を読ませる、読みの修正、範読、リピート。
板書　Aに限らずB　　嵐は日本に限らず中国でも人気だ。

　　A に限らず　　学習者に出させる。キュー：嵐は…？
本文内の表現で確認。
9：00　ともなると…例文を読ませる、読みの修正、範読、リピート。
板書　　昼休みとなると→昼休みともなると
　　強調
例文を作らせる（学生二名を指名）
T：休日ともなると…？
S：市内は人でいっぱいです。
S：地下鉄は込みます。
9：05　みずから…例文を読ませる。どれが副詞でどれが名詞かを答えさせる。
例文を作らせる。（学生二名を指名）
9：07　さらに P34…例文を読ませる、読みの修正、範読、リピート。
板書　①程度、行為の程度が高まる
T：山岸先生です。昨日、美しかったですね。でも今日。もっと美しいです。山岸先生は…？
S：さらに美しくなりました。
T：私には彼氏がいます。私は彼が大好きです。しかし、昨日、お年寄りを助けていたのを見ました。それを見て私は…？
S：さらに彼が好きになりました。
　　②さらに～ない
板書　さらに～ない＝まったくない
口語ではほとんど使われないが、文章では使われることがあると提示。
9：10　済ませる P42 …教科書内の説明が誤っているため訂正。
9：12　第二段落のまとめ：調理といういとなみに起こっている奇妙なこととは何か。
　　S：料理をしない人が増えてきた。
9：15　グルメ番組と料理番組の違いについて
　　ワイドショーとは何か（新聞のテレビ欄を提示。ワイドショーがハイライトしてある。）
9：20　時間をとる P36…例文を読ませる、読みの修正、範読、リピート。
T：時間をとるは時間を確保するです。
T：どんなに忙しくても、私は 6 時間寝ます。私は寝る時間を 6 時間…？
S：とっています。
（勉強するなどでも練習）
9：20　とても～ない
T：とても～ないはどうやっても不可能ということです。
板書　とても～ない＝どうしても不可能
T：レストランに行きます。友達がピザとお寿司とうどんと、チャーハンと、麻婆豆腐とケーキ 6 つを頼みました。一人ではとても…？
S：食べられません。
T：先生が明日までに新しい日本語の単語を 200 個、覚えなさいと言いました。ええー？このとき？
S：とても覚えられません。

本文中の表現で確認。
9：25　計算に入る P37…例文を読ませる、読みの修正、範読、リピート。
①　計算に含まれる
②　考慮される
T：本文は①と②どちらですか？
指示詞確認　それで番組が…のそれでは何を指すか。
第三段落のまとめ。

８．２　学んだこと

二週目で学生とのコミュニケーションがうまくいった。イラストや、図を用いたりすることで、学生を参加させる授業にできたことは良かった点である。しかし、文法事項の説明が十分でなかった箇所があり、もっと文法用語を用いて説明してほしいとの声があった。実際に先生からももっと説明してくれても大丈夫！とのアドバイスをいただいた。板書がうまくできずに、学生がメモを取りにくい書き方になってしまっていた。何をどこに書くべきかの計画が不十分であった。特に内容と文法事項が入り乱れてしまったのは反省点であった。時間配分などはおおむね計画通りであった。

４．今後の「日本語教育学臨地実習」の派遣先・研修対象としての適切性について

４．１　臨地実習の派遣先として

先生方の指導が手厚く受けられる。そしてなにより学生の質が高く、日本語を学ぶ意志も強いので刺激を得られる実習になる。多くの学生が質問などをしてくれ、答えられずにまごついたこともあったが、いい勉強になった。これからの学習のいいモチベーションとなる。

４．２　全般的に訪問先として

何かと関係が揺れる日本と中国であるが、そのようなことでなにか嫌な思いをしたり、困ったりしたことは少しもなかった。それどころか先生方、そして学生が非常によくしてくれた。とても満足のいく二週間であった。ただし暖房が教室には設置されていないので、体調管理は気を付けるべきである。私が訪れたときは暖かく、そこまで寒さは感じなかったが、例年体調を崩す学生もいるようである。食事については食堂が利用できるが、中国語ができないと難しかった。学生が助けてくれた。しかし学生の中には食堂の食事は安全ではないといい、外のおいしいお店を紹介してくれる人もいた。

４．３　本学学生の訪問先への貢献

日本に強く興味、関心を持っていながら、日本になかなか来ることができない学生が多い。そのなかで私たちが行くことで学生たちはとても喜んでくれた。そして直接法での指導は学生にとってはあまりなじみがなく、聴解の練習になったという声や、日本語に惚れ直したという声、そしてもっと日本語を勉強するから、また来てほしいといった声が聴かれた。これらはすべて彼らと日本語との結びつきを強化したり、変化させたりしたのではないかと思う。なにより関係が危ぶまれることの多い日中だからこそ、訪問することに大きな意味があったと感じる。

９．４　今後の課題・提案

今回は学部特化コースのインターンシップに同行する形で参加した。インターンシップでは事前準

備が充実しており、ある程度の準備をしてから上海に行くことができたため、気持ちにも余裕があった。しかしそれでも、実際に学生に触れると教案を変えたりする必要があり、準備には終わりがない。また授業中に臨機応変に対応せねばならぬところも出てきた。それらへの対応が上手ではなかったと考えている。しかしながら特化コースの上海実習は歴史があり、過去にどのようなことがあったのか、何が必要だったかが調べることが可能であった。実習前には生活の面においても、授業の面においても、過去の報告書などは重要になってくるだろう。